ノ豫定

第十二條　聯合農業倉庫業者ノ業務規程ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一　事業ノ種類及農業倉庫業法第十九條第三項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨

二　第二條第二號、第四號乃至第十三號及第十六號ニ揭クル事項

三　農業倉庫業法第十九條第三項ノ規定ニ依リ保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタルトキハ其ノ順位竝同條第一項及第二項ノ規定ニ依ル保管上必要アルトキハ何時ニラモ同條第三項ノ規定ニ依ル保管物ノ出庫ヲ爲サシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位

四　農業倉庫業法第二條（同法第二十六條第一項ノ規定ニ依リ準用）ノ規定ニ依ル事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定

五　所屬組合又ハ所屬聯合會ニ非サル組合又ハ聯合會ノ爲ニ事業ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定

六　聯合農業倉庫業者カ農業倉庫業法第二十四條ノ規定ニ依リ聯合

農業倉庫業法施行規則

農業倉庫證券ト引換ニ受取リタル農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券ノ取扱ニ關スル規定

第十三條　聯合農業倉庫業者ハ農業倉庫業法第十九條第三項ノ規定ニ依リ保管スル物品ニ付テハ同條第一項及第二項ノ規定ニ依リ保管スル物品ト區別シテ整理シタル帳簿ヲ備付クヘシ

第十四條　第三條、第五條及第七條乃至第十條ノ規定ハ聯合農業倉庫業者ニ之ヲ準用ス但シ第五條中農業倉庫ナル文字トアルハ聯合農業倉庫ナル文字トス

第十五條　農業倉庫業法第六條及第十三條ノ行政官廳ハ地方長官トシ同法第十五條乃至第十七條ノ行政官廳ハ北海道ニ於テ產業組合、產業組合聯合會、町村農會、郡農會又ハ町村若ハ之ニ準スヘキモノカ農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者タル場合ニ於テハ農林大臣、北海道廳長官及北海道廳支廳長トス

附　則

本則ハ農業倉庫業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第七條又ハ第十五條ノ規定ニ依リ公益法人ニ付地方長官ノ行フヘキ處分ハ當分ノ內農林大臣之ヲ行フ

附　則

本令ハ大正十五年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一八　農業倉庫業法第一條第一項第一號ノ規定ニ依ル物品指定ニ關スル件　大正十五年七月十四日勅令第二百五十八號

農業倉庫業法第一條第一項第一號ノ規定ニ依リ物品ヲ指定スルコト左ノ如シ

沖繩縣及鹿兒島縣ニ於テ生產セラレタル黑糖及白下糖

附　則

本令ハ大正十五年法律第三十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

一九　農業倉庫奬勵規則　大正六年八月十五日農商務省令第十六號
改正大正十四年四月二十八日農林省令第八號
昭和三年六月二十九日改正農林省令第八號

第一條　農林大臣ハ農業倉庫及聯合農業倉庫奬勵ノ爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ農業倉庫業者農業倉庫又ハ聯合農業倉庫ヲ新築、增築、改築若ハ移築シ又ハ買入レムトスル場合ニ於テ之ニ要スル費用ニ付道府縣ノ交付スル補助金ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付ス

第三條　奬勵金ノ額ハ農業倉庫又ハ聯合農業倉庫ノ新築、增築、改築移築又ハ買入ニ要スル費用ノ四割以內ニシテ道府縣ノ負擔スル補助金額ノ四倍ヲ超エサルモノトス

前項ノ規定ハ聯合農業倉庫ニ關シ交付スル奬勵金ニ付テハ之ヲ適用

セサルコトアルヘシ

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケムトスル道府縣ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添付シ前年度二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ　但シ既ニ提出シタル補助金交付ニ關スル規程ニ變更ナキトキハ第二號ノ書類ハ之ヲ添付スルコトヲ要セス

一　補助金豫算書及其ノ說明書

二　補助金交付ニ關スル規程

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ニシテ補助金豫算又ハ補助金交付ニ關スル規程ヲ變更セムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ當該年度ニ於ケル補助金ノ決算及其ノ交付ノ成績ヲ翌年度六月三十日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第七條　道府縣其ノ交付ヲ受ケタル奬勵金ノ全部ヲ當該年度內ニ支出スルコト能ハサルトキハ其ノ殘額ヲ當該年度後ニ於テ行フ同一ノ事業ニ對シ交付スル義務アルモノトス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ奬勵金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定又ハ奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二　補助金交付ノ成績不良ナリト認ムルトキ

三　奬勵金ノ殘額ニシテ繰越交付ノ見込ナキトキ

第九條　削除

附則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中前年度二月末日迄トアルハ昭和三年度ニ限リ昭和三年八月三十一日迄トス

本令施行前交付シタル補助金ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

二〇　農業倉庫建設奨勵金交付ノ特例ニ關スル件

昭和七年九月二十四日
農林省令第二十三號

農業倉庫又ハ聯合農業倉庫奨勵ノ爲交付スル奨勵金ニシテ農村經濟更生施設費ニ依ルモノハ當分ノ內農業倉庫奨勵規則ニ拘ラス之ヲ交付ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二一　産業組合中央金庫法

大正十一年四月五日法律第四十二號
改正昭和六年五月二十二日法律第六十三號
改正昭和七年九月六日法律第三十一號

第一章　總　則

第一條　産業組合中央金庫ハ法人トシ其ノ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク

産業組合中央金庫ノ組織ハ有限責任トス

第二條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ從タル事務所ヲ設置スルコトヲ得

主務大臣ニ於テ從タル事務所ヲ必要ナリトスルトキハ産業組合中央金庫ニ命シテ之ヲ設置セシムルコトヲ得

第三條　産業組合中央金庫ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ代理スルコトヲ得

第四條　産業組合中央金庫ノ存立期間ハ設立許可ノ日ヨリ五十箇年トス但シ政府ノ認可ヲ經テ存立期間ヲ延長スルコトヲ得

産業組合中央金庫ノ資本金ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬口ニ分チ一口ノ金額ヲ百圓トス

第五條　政府、産業組合聯合會又ハ産業組合ノ外産業組合中央金庫ノ出資者タルコトヲ得ス

産業組合聯合會ノ有スヘキ出資口數ハ千口ヲ、産業組合ノ有スヘキ出資口數ハ五百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第六條　政府ハ千五百萬圓ヲ限リ産業組合中央金庫ニ出資スヘシ政府ハ其ノ出資額ニ對シ設立當初ニ於テ五百萬圓ヲ拂込ミ爾後毎年五百萬圓宛拂込ムモノトス政府以外ノ出資者ハ其ノ出資ニ對シ設立當初ニ於テ出資額ノ五分ノ一ヲ拂込ミ爾後十箇年間ニ其ノ殘餘ヲ拂込ムモノトス

政府ノ産業組合中央金庫ニ對シテ所有スヘキ持分ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　産業組合法中産業組合ニ關スル規定ハ本法ニ別段ノ規定アルモノ及産業組合法第十條ノ五乃至第十條ノ八ノ規定ヲ除クノ外産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第八條　産業組合中央金庫ニハ所得稅及營業收益稅ヲ課セス登錄稅法及印紙稅法中産業組合聯合會ニ關スル規定ハ産業組合中央金庫ニ付之ヲ準用ス

第二章　役　員

第九條　産業組合中央金庫ニ理事長、副理事長各一人理事、監事各三人以上ヲ置ク

第十條　理事長ハ産業組合中央金庫ヲ代表シテ其ノ事務ヲ總理ス副理事長ハ理事長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ理事長缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ

副理事長及理事ハ理事長ヲ補助シ定款ノ定ムル所ニ從ヒ産業組合中央金庫ノ業務ヲ掌理ス

監事ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監査ス

第十一條　理事長、副理事長、理事及監事ハ主務大臣之ヲ任命ス

理事長、副理事長及理事ノ任期ハ五箇年監事ノ任期ハ三箇年トス但シ其ノ任期滿限ノ後再任ヲ命スルコトヲ得

第十二條　産業組合中央金庫ニ評議員二十名以內ヲ置キ主務大臣之ヲ

任命ス但シ其ノ半數以上ハ産業組合關係者中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ要ス

評議員ハ名譽職トシ定款ノ定ムル所ニ依リ業務經營ニ關スル重要ナル事項ニ就キ理事長ノ諮問ニ應スルモノトス

評議員ノ任期ハ三箇年トス

第三章　業務

第十三條　産業組合中央金庫ハ左ノ業務ヲ營ムモノトス

一　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲ爲スコト

二　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ擔保ヲ徵セスシテ三十箇年以内ノ年賦償還貸付ヲ爲スコト但シ其ノ金額ハ拂込出資金及産業債券發行額ノ二分ノ一ヲ超エサルモノトス

三　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

四　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ爲替業務ヲ爲スコト

五　産業組合聯合會、産業組合、公共團體其ノ他營利ヲ目的トセサル法人ヨリ預リ金ヲ爲スコト

六　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ有價證券ノ保護預リヲ爲スコト

七　所屬産業組合聯合會又ハ所屬産業組合ノ爲ニ有價證券ノ委託賣買ヲ爲スコト

第十四條　産業組合中央金庫ハ必要アリト認メタル場合ニ於テハ擔保ヲ徵シテ前條第一號乃至第三號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第十五條　産業組合中央金庫ハ左ノ方法ニ依ルノ外業務上ノ餘裕金ヲ運用スルコトヲ得ス

一　國債證券、地方債證券又ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル有價證券ノ買入ヲ爲スコト

二　大藏省預金部若ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル銀行ヘノ預金又ハ郵便貯金ト爲スコト

三　産業組合聯合會又ハ産業組合ニ對シ短期貸付ヲ爲スコト

前項ノ餘裕金運用ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條　産業組合中央金庫ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第四章　産業債券

第十七條　産業組合中央金庫ハ拂込金額ノ十倍ヲ限リ産業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ貸付金現在高割引手形現在高及其ノ所有ニ係ル有價證券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

産業債券ノ發行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

所得稅法及登錄稅法中社債ニ關スル規定ハ産業債券ニ付之ヲ準用ス

第十八條　産業債券ハ券面金額五拾圓以上トシ無記名利札附トス但シ應募者又ハ所有者ノ請求ニ依リ記名ト爲スコトヲ得

第十九條　産業組合中央金庫ハ産業債券借換ノ爲一時第十七條ノ制限ニ依ラス低利ノ産業債券ヲ發行スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ産業債券ヲ發行シタルトキハ發行後一箇月以內ニ抽籤ヲ以テ其ノ發行券面金額ニ相當スル舊産業債券ヲ償還スヘシ

第二十條　産業組合中央金庫ニ於テ産業債券ヲ發行セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十一條　産業債券ノ消滅時效ハ元金ニ在リテハ十五箇年、利子ニ在リテハ五箇年ヲ以テ完成ス

第二十二條　産業債券ノ模造ニ關シテハ通貨及證券模造取締法ヲ準用ス

第五章　計算

第二十三條　産業組合中央金庫ノ事業年度ハ六箇月トス

第二十四條　産業組合中央金庫ハ每事業年度ニ於テ準備金トシテ剩餘金ノ十分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

第六章　監督及補助

第二十五條　主務大臣ハ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監督ス

本法中主務大臣トアルハ農林大臣及大藏大臣トス

第二十六條　産業組合中央金庫ハ其ノ定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第二十七條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第二十八條　産業組合中央金庫ハ主務大臣ノ命令ニ從ヒ其ノ業務ニ關スル諸般ノ狀況及計算報告書ヲ差出スヘシ

第二十九條　主務大臣ハ必要アリト認ムルトキハ産業組合中央金庫ノ貸付又ハ割引ノ金額若ハ方法ヲ制限スルコトヲ得

第三十條　産業組合中央金庫ノ貸付金利子ノ最高歩合ハ毎事業年度ノ初ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ經テ之ヲ定ムヘシ其ノ事業年度內ニ於テ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十一條　主務大臣ハ特ニ産業組合中央金庫監理官ヲ置キ産業組合中央金庫ノ業務ヲ監視セシムルコトヲ得

第三十二條　産業組合中央金庫監理官ハ何時ニテモ産業組合中央金庫ノ業務及財產ノ狀況ヲ檢查スルコトヲ得

產業組合中央金庫監理官ハ監視上必要ナリト認ムルトキハ何時ニテモ產業組合中央金庫ニ命シテ業務上諸般ノ計算及狀況ヲ報告セシムルコトヲ得

第三十三條　產業組合中央金庫監理官ハ出資者總會其ノ他諸般ノ會議ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第三十四條　左ノ場合ニ於テハ產業組合中央金庫ノ理事長、副理事長、理事又ハ監事ヲ百圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

第七章　罰則

一　本法ニ於テ主務大臣ノ認可ヲ受クヘキ場合ニ其ノ認可ヲ受ケサルトキ

二　主務大臣ノ命令ニ反シタルトキ

三　第十五條ノ規定ニ反シ業務上ノ餘裕金ヲ使用シタルトキ

四　第十六條ノ規定ニ反シ本法ニ規定セサル業務ヲ營ミタルトキ

五　第十七條第一項及第十九條第二項ノ規定ニ反シタルトキ

第三十五條　非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前條ノ過料ニ之ヲ準用ス

附　則

第三十六條　主務大臣ハ設立委員ヲ置キ産業組合中央金庫ノ設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムル

第三十七條　設立委員ハ定款ヲ作リ主務大臣ノ認可ヲ受ケタル後出資者ヲ募集ス

第三十八條　設立委員ハ出資者ノ募集ヲ終リタルトキハ出資申立書ヲ主務大臣ニ提出シ産業組合中央金庫設立ノ許可ヲ禀請スヘシ

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク出資第一回ノ拂込ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第三十九條　創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ産業組合中央金庫理事長ニ引渡スヘシ

第四十條　産業組合中央金庫設立ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

附　則（昭和六年法律第六十三號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和六年五月二十三日公布）

附　則（昭和七年法律第三十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム但シ第二十三條ノ改正規定ハ昭和八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（昭和七年九月三十日勅令第二百七十七號ヲ以テ同年十月一日ヨリ之ヲ施行ス）

三　産業組合中央金庫法施行規則

大正十二年七月五日農商務省令第十六號
改正昭和七年九月三十日農林省令第二十六號

第一條　産業組合中央金庫ニ對シテ政府ノ有スル持分ハ拂込濟資本金ニ對スル政府ノ拂込濟出資額ノ割合ニ依ルモノトス

第二條　資本金增加ノ場合ニ於テ加入金及增口金ヲ徵收セムトスルトキハ産業組合中央金庫ハ農林大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

加入金及增口金ハ準備金ニ組入ルヘシ

第三條　産業組合中央金庫ニ於テ總代會ヲ設ケムトスルトキハ定款ニ總代ノ員數、任期及選擧ニ關スル規定ヲ設クヘシ

總代ハ道府縣每ニ出資者之ヲ互選スヘシ

第四條　産業組合中央金庫ハ每事業年度總會又ハ總代會ニ於テ一所屬産業組合ニ對シテ爲ス産業組合中央金庫法第十三條及第十四條ノ規定ニ依ル貸付又ハ手形ノ割引ニ付其ノ金額ノ最高限度ヲ議決スヘシ

前項ノ規定ハ産業組合中央金庫法第十五條ノ規定ニ依ル貸付ニ付之ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リ議決シタル事項ハ遲滯ナク之ヲ農林大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ

第五條　剩餘金ノ配當ハ拂込濟出資額又ハ所屬産業組合聯合會及所屬産業組合ニ對シ取扱ヒタル事業ノ分量ニ對スルノ外之ヲ爲スコトヲ得ス

拂込濟出資額ニ對スル剩餘金配當ノ率ハ年六分ヲ超ユルコトヲ得ス

但シ準備金ノ額カ出資總額ノ四分ノ一ニ達シタルトキハ年八分迄之ヲ增加スルコトヲ得

第六條　産業組合中央金庫理事長、副理事長、理事及監事ノ報酬又ハ

賞與ニ關スル事項ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

前項役員ノ報酬ノ額ハ農林大臣及大藏大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　財產目錄、貸借對照表及事業報告書ニ付總會又ハ總代會ノ承認アリタルトキハ產業組合中央金庫ハ遲滯ナク之ヲ農林大臣及大藏大臣ニ提出シ且定款ノ定ムル方法ニ從ヒ貸借對照表ヲ公告スヘシ

第八條　產業組合中央金庫ニ於テ事業施行ニ關スル規程ヲ設ケタルトキハ遲滯ナク之ヲ農林大臣及大藏大臣ニ屆出ツヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

本令ハ昭和七年法律第三十一號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

三　產業債券令

大正十二年七月二十六日勅令第三百五十八號

第一條　產業組合中央金庫ノ產業債券ノ發行ハ募集又ハ賣出ノ方法ニ依リ之ヲ爲スコトヲ得

第二條　產業組合中央金庫ハ前ニ募集シタル產業債券ノ總額ノ拂込前ト雖更ニ產業債券ヲ發行スルコトヲ得

第三條　產業債券ノ募集ニ應セムトスル者ハ產業債券申込證二通ニ其ノ引受ク可キ產業債券ノ數及住所ヲ記載シ之ニ署名又ハ捺印スヘシ

產業債券申込證ハ理事長之ヲ作リ左ニ揭クル事項ヲ之ニ記載スヘシ

一　名稱

二　產業債券ノ總額

三　各產業債券ノ金額

四　產業債券ノ利率

五　産業債券償還ノ方法及期限
六　數回ニ分チテ産業債券ノ拂込ヲ爲サシムルトキハ其ノ拂込ノ金額及時期
七　産業債券發行ノ價額又ハ其ノ最低價額
八　産業組合中央金庫ノ資本金及拂込ミタル出資ノ總額
九　最終ノ貸借對照表ニ依リ産業組合中央金庫ニ現存スル財産ノ額
十　前ニ産業債券ヲ發行シタルトキハ其ノ償還ヲ了ヘサル總額

産業債券發行ノ最低價額ヲ定メタル場合ニ於テハ應募者ハ産業債券申込證ニ應募價額ヲ記載スヘシ

第四條　前條ノ規定ハ契約ニ依リ産業債券ノ總額ヲ引受クル場合ニハ之ヲ適用セス産業債券募集ノ委託ヲ受ケタル者カ自ラ産業債券ノ一部ヲ引受クル場合ニ於テ其ノ一部ニ付亦同シ

第五條　産業債券申込證ニ記載シタル産業債券ノ總額ニ達セサルトキト雖産業債券ノ發行ヲ成立セシムル旨ヲ産業債券申込證ニ記載シタルトキハ其ノ應募總額ヲ以テ産業債券ノ總額トス

第六條　産業債券ノ募集カ完了シタルトキハ理事長ハ遲滯ナク各産業債券ニ付其全額又ハ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第七條　産業債券募集ノ委託ヲ受ケタルモノハ自己ノ名ヲ以テ産業組合中央金庫ノ爲ニ第三條第二項及前條ニ定ムル行爲ヲ爲スコトヲ得

第八條　産業債券ノ賣出ヲ爲サムトスルトキハ理事長ハ左ニ掲クル事項ヲ公告スヘシ

一　賣出期間
二　産業債券發行ノ價額
三　第三條第二項第一號乃至第五號及第八號乃至第十號ニ掲クル事項
四　第九條ニ規定スル事項

第九條　賣出期間内ニ賣上ケタル産業債券ノ總額カ前條ノ規定ニ依リ

公告シタル産業債券ノ總額ニ達セサルトキハ其ノ賣上總額ヲ以テ産業債券ノ總額トス

第十條　第六條ノ拂込アリタルトキ又ハ賣出期間滿了シタルトキハ左ニ揭クル事項ヲ登記スヘキモノトス

一　第三條第二項第二號乃至第五號ニ揭クル事項

二　各產業債券ニ付拂込ミタル金額

前項ニ揭クル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ登記ヲナスヘキモノトス

第十一條　第六條ノ拂込アリタルトキ又ハ賣出期間滿了シタルトキハ理事長ハ二週間內ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シ前條第一項ニ揭クル事項ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ

一　最終ノ貸借對照表

二　產業債券ノ引受ヲ證スル書面又ハ賣出期間內ニ於ケル賣上總額ヲ證スル書面

三　產業債券申込證

四　各產業債券ニ付第六條ノ拂込アリタルコトヲ證スル書面

前項ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ農商務大臣及大藏大臣ハ各事務所所在地ノ登記所ニ登記ヲ囑託スヘシ

前項ノ規定ニ依リ登記ノ囑託ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ囑託書ニハ第一項ノ届書及添附書類ヲ添附スヘシ

第十二條　第十條第一項ニ揭クル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ理事長ハ二週間內ニ其ノ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附シ其ノ事項ヲ農商務大臣及大藏大臣ニ届出ツヘシ

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依ル届出アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第十三條　產業債券ハ全額ノ拂込アリタル後ニ非サレハ之ヲ發行スルコトヲ得ス

第十四條　產業債券ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ理事長之ニ署名又ハ

記名捺印スヘシ

一　産業債券ノ番號

二　第三條第二項第一號乃至第五號ニ掲クル事項

賣出ノ方法ニ依リ發行スル産業債券ニハ第三條第二項第二號ニ掲クル事項ヲ記載スルコトヲ要セス

第十五條　理事長ハ主タル事務所ニ産業債券原簿ヲ備ヘ置クヘシ

産業組合中央金庫ノ出資者及債權者ハ業務取扱時間内何時ニテモ産業債券原簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十六條　産業債券原簿ニハ左ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

一　産業債券ノ數及番號

二　産業債券發行ノ年月日

三　第三條第二項第二號乃至第六號ニ掲クル事項

四　各産業債券ニ付拂込ミタル金額及拂込ノ年月日

産業債券ヲ記名ト爲シタルトキハ前項ニ掲クル事項ノ外權利者ノ氏名、住所及取得ノ年月日ヲ産業債券原簿ニ記載スヘシ

第十七條　産業債券權利者ニ償還スヘキ金額カ券面額ニ超ユヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ金額ハ各産業債券ニ付同一ニ定メ且券面ニ之ヲ記載スヘシ

第十八條　産業債券應募者ニ對スル通知又ハ催告ハ産業債券申込證ニ記載シタル其ノ者ノ住所ニ、其ノ者カ別ニ其ノ住所ヲ産業組合中央金庫ニ通知シタルトキハ其ノ住所ニ宛ツルヲ以テ足ル

前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二四　産業組合中央金庫特別融通及損失補償法

昭和七年九月六日
法律第三十二號

第一條　産業組合中央金庫ハ所屬信用組合聯合會又ハ所屬信用組合ニ對シ其ノ固定セル債權ヲ資金化シテ金融ノ疏通ヲ圖ル爲必要アリト認ムルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第二條　産業組合中央金庫カ前條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スハ本法施行ノ日ヨリ三年トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ十五年ヲ超ユルコトヲ得ス

第三條　産業組合中央金庫法第十四條ニ規定スル第十三條第一號ノ規定中貸付年限及償還方法ニ關スルモノ竝同法第十四條ニ規定スル第十三條第二號但書ノ規定ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ニハ之ヲ適用セス

産業組合中央金庫カ第一條ノ規定ニ依ル特別融通以外ノ融通ヲ爲ス場合ニ於テ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ノ額及之ヲ爲ス爲發行スル産業債券ノ額ハ産業組合中央金庫法第十三條第二號但書ノ制限ノ計算上之ヲ算入セス

第四條　産業組合中央金庫ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス爲必要アルトキハ産業組合中央金庫法第十七條第一項ノ制限ニ拘ラス産業債券ヲ發行スルコトヲ得

産業組合中央金庫カ第一條ノ規定ニ依ル特別融通以外ノ融通ヲ爲ス爲産業債券ヲ發行スル場合ニ於テ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲ス爲發行スル産業債券ノ額ハ産業組合中央金庫法第十七條第一項ノ制限ノ計算上之ヲ算入セス

第五條　政府ハ第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リテ産業組合中央金庫カ損失ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ三千萬圓ヲ限リ其ノ損失ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第六條　第一條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リテ産業組合中央金庫ノ受ケタル損失及其ノ額ハ産業組合中央金庫特別融通損失審査會之ヲ決定ス

産業組合中央金庫特別融通損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條　第五條第一項ノ契約ニ基キ政府カ産業組合中央金庫ニ對シテ支拂フヘキ損失補償金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第八條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スルコトヲ得

第九條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

第十條　本法中主務大臣トアルハ農林大臣及大藏大臣トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

産業組合中央金庫特別融通及損失補償法施行規則

昭和七年十月一日
農林省令第二十七號

第一條　産業組合中央金庫特別融通及損失補償法第一條ノ規定ニ依ル特別融通ニ依リテ資金化セラルヘキ債權ハ同法施行前ニ發生シタルモノニ限ル

第二條　産業組合中央金庫ハ緊急融通ノ必要アル場合ニ於テハ擔保設定ニ伴フ登記其ノ他ノ對抗要件完備前ト雖所屬信用組合聯合會又ハ所屬信用組合ノ役員ノ個人ノ資格ヲ以テスル連帶保證書ヲ徵シテ特別融通ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ速ニ登記其ノ他ノ對抗要件ヲ完備スヘク其ノ完備後産業組合中央金庫ハ特別ノ事由ナキ限リ當該ノ信用組合聯合會又ハ信用組合ノ役員ノ個人ノ資格ヲ以テスル連帶保證ヲ免除スヘシ

第三條　産業組合中央金庫ハ特別融通ノ資金ニ充ツル爲大藏省預金部

ニ對シ産業債券ノ引受ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ産業債券ノ引受利率ハ年五分三厘トス

第四條　産業組合中央金庫カ特別融通ヲ爲ス場合ニ於ケル利率ハ年五分九厘トス

産業組合中央金庫ハ所屬信用組合聯合會又ハ所屬信用組合カ特別融通ノ債務ノ辨濟ヲ怠リタル場合ニ於テハ百圓ニ付日歩三錢ノ割合ヲ以テ遲延利息ヲ徵スルコトヲ得

第五條　産業組合中央金庫ハ特別融通ニ付調査費ヲ徵スルコトヲ得ス

但シ特ニ多額ノ調査費用ヲ要スル場合ニ於テ其ノ實費ヲ徵スルハ此ノ限ニ在ラス

第六條　産業組合中央金庫ハ特別融通ヲ爲シタル所屬信用組合聯合會又ハ所屬信用組合ニ對シ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ其ノ資産、負債及事業ノ狀況ヲ調査シ又ハ必要ナル報告ヲ爲サシムルコトヲ得ヘキ旨ノ契約ヲ締結スヘシ

産業組合中央金庫カ前項ノ契約ニ依リ調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ爲サシメタルトキハ其ノ結果ヲ農林大臣及大藏大臣ニ報告スヘシ

第七條　産業組合中央金庫ハ特別融通ニ關シ農林大臣及大藏大臣ノ定ムル所ニ依リ報告ヲ爲スヘシ

第八條　特別融通ニ關シテハ本令ニ依ルモノノ外農林大臣及大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二六　農村負債整理組合法

昭和八年三月二十九日法律第二十一號

第一章　總　則

第一條　本法ハ農山漁村ニ居住スル者ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ

精神ニ則リ其ノ者ヲシテ負債整理組合ヲ組織セシメ組合ノ樹立シタル負債償還計畫及經濟更生計畫ヲ履行セシメ以テ其ノ負債ノ整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トス

第二條　本法ニ於テ負債トハ負債整理組合ノ組合員ノ負擔スル私法上ノ金錢債務ニシテ組合設立前ニ生シタルモノヲ謂フ但シ本法施行後ニ生シタルモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケタルモノニ限ル

第三條　負債整理組合ノ組合員本法ニ依リ負債整理ヲ爲サントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ負債整理組合ニ對シ其ノ旨ヲ申出ツヘシ

負債整理組合前項ノ申出ヲ受ケタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其ノ他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ニ付斡旋ヲ爲スヘシ

第四條　前條ノ斡旋ニ依リ協定成ラサル負債ニ付テハ負債整理組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村負債整理委員會ニ對シテ其ノ協定ノ斡旋ヲ請求スルコトヲ得

市町村負債整理委員會ノ組織、權限其ノ他必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　前條ノ市町村負債整理委員會ノ斡旋ニ依リ協定成ラサルトキ又ハ負債整理組合ノ事務所ノ所在地タル市町村ニ市町村負債整理委員會ナキ爲其ノ斡旋ニ依ルコト能ハサルトキハ債務者タル組合員又ハ債權者ハ金錢債務臨時調停法第二條第一項ノ期日ニ關スル制限ノ規定ニ拘ラス同法ニ依ル調停ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第六條　第三條第一項ノ規定ニ依リ負債整理ノ申出アリタル負債ニ付金錢債務臨時調停法ニ依ル調停事件繫屬スルトキハ裁判所又ハ調停委員會ハ第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依ル斡旋ノ終了ニ至ル迄其ノ調停手續ヲ中止スルコトヲ得

第七條　負債整理組合ヨリ負債整理資金ノ貸付ヲ受ケタル組合員カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル負債整理組合ノ

不動産其ノ他ノモノノ取得ニ關シテハ地方稅ヲ課スルコトヲ得ス

第八條　信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニシテ命令ノ定ムル所ニ依リ行政官廳ノ認可ヲ受ケ第十一條ノ事業ヲ行フモノハ本章ノ適用ニ關シテハ之ヲ負債整理組合ト看做ス但シ第二條中組合設立前トアルハ行政官廳ノ認可前トス

前項ノ法人カ第十一條ノ事業ノ認可ヲ申請スルコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ三年間トス

第九條　本法中町村トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ於テハ之ニ準スヘキモノトス

第二章　負債整理組合

第十條　負債整理組合ハ組合員ノ經濟更生ヲ圖ル爲隣保共助ノ精神ニ則リ組合員ヲシテ其ノ負債ノ整理ヲ爲サシムルコトヲ目的トス

第十一條　負債整理組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　組合員ノ負債償還計畫及經濟更生計畫ノ樹立

二　債務者タル組合員及債權者間ニ於ケル負債ノ金額、利率、償還期限、償還方法其ノ他ノ條件ノ緩和ニ關スル協定ノ斡旋

三　組合員ニ對スル負債整理資金ノ貸付

四　前各號ニ掲クルモノノ外組合員ノ負債整理ニ必要ナル事業

負債整理組合ハ組合員カ負債整理ノ爲其ノ所有地ヲ處分スル場合ニ於テ組合員タル小作人其ノ他ノ者ガ其ノ土地ヲ購入セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ之ニ要スル資金ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

第十二條　負債整理組合ハ法人トス

第十三條　負債整理組合ハ一定ノ地區内ニ居住スル者ヲ以テ之ヲ組織ス

前項ノ地區ハ部落其ノ他之ニ準スル區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ町村ノ區域ニ依ルコトヲ得

第十四條　負債整理組合ノ組織ハ無限責任及保證責任ノ二種トス

無限責任ノ組合ニ在リテハ組合財產ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト

能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員ガ連帶無限ノ責任ヲ負擔シ保證責任ノ組合ニ在リテハ組合財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルコト能ハサル場合ニ於テ組合員ノ全員カ其ノ出資額ノ外一定ノ金額(保證金額)ヲ限度トシテ責任ヲ負擔ス

第十五條　負債整理組合ヲ設立セントスルトキハ設立者ハ規約ヲ作成シ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ニ設立ノ認可ヲ申請スヘシ

規約ニハ本法ニ規定アルモノヲ除クノ外左ニ揭クル事項ヲ記載シ設立者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一　目的
二　名稱
三　組織
四　地區
五　事務所ノ所在地
六　組合員ノ加入脫退ニ關スル規定
七　事業ノ執行ニ關スル規定
八　役員ニ關スル規定
九　損失分擔ニ關スル規定
十　組合カ公告ヲ爲ス方法
十一　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由
十二　無限責任ノ組合ニ在リテハ組合費ノ分擔ニ關スル規定
十三　保證責任ノ組合ニ在リテハ出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法並ニ保證金額ニ關スル規定

第十六條　前條第一項ノ認可ノ申請ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ三年間トス

第十七條　負債整理組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以內ニ其ノ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

登記スヘキ事項左ノ如シ

一　第十五條第二項第一號乃至第五號及第十一號ニ揭ケタル事項

二　設立認可ノ年月日
三　理事及監事ノ氏名及住所
四　保證責任ノ組合ニ在リテハ出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法

前項ニ掲クル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以内ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第十八條　本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第十九條　負債整理組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第二十條　負債整理組合ノ設立登記ノ申請書ニハ無限責任ノ組合ニ在リテハ產業組合法第十六條ノ五第一項第三號ニ掲クル事項ヲ、保證責任ノ組合ニ在リテハ同條同項第一號、第二號及第四號ニ掲クル事項ヲ記載シタル組合原簿ヲ添附スヘシ

組合員ノ加入ニ因ル變更登記ノ申請書ニハ無限責任ノ組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所ヲ、保證責任ノ組合ニ在リテハ加入者ノ氏名及住所及保證金額ヲ記載シタル組合原簿ヲ添附スヘシ

第十七條第三項及第十八條竝ニ產業組合法第十六條ノ四第一項及第十六條ノ五第二項ノ規定ハ組合原簿ニ之ヲ準用ス但シ同法第十六條ノ四第一項中地方長官トアルハ事務所所在地ノ登記所トス

第二十一條　負債整理組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ其ノ組合員ヲシテ組合ノ負債償還ノ一部ニ充ツル爲積立金ヲ醵出セシムルコトヲ得

前項ノ積立金ノ管理、處分其ノ他必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條　負債整理組合ノ組合員ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總組合員ノ三分ノ二以上ノ同意アルニ非サレハ脫退スルコトヲ得ス

脫退シタル組合員ハ脫退前ニ生シタル組合ノ債務ニ付第十四條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第二十三條　負債整理組合ニ加入シタル組合員ハ其ノ加入前ニ生シタル組合ノ債務ニ付テモ亦第十四條第二項ノ規定ニ依ル責任ヲ負擔ス

第二十四條　産業組合法第三條、第四條、第六條、第七條、第二十三條、第二十五條乃至第三十一條ノ二、第三十二條乃至第三十八條、第三十九條、第四十九條、第六十條第一項（清算ニ關スル規定ヲ除ク）第六十條ノ二、第六十一條（清算ニ關スル規定ヲ除ク）、第六十二條、第六十五條、第六十八條、第六十九條、第七十四條ノ二第一項及第九十三條ノ二、民法第四十七條、第四十八條、第六十條、第七十三條乃至第八十二條及第八十四條第一號竝ニ非訟事件手續法第三十五條第二項、第三十六條、第三十七條ノ二、第百十七條、第百十九條乃至第百二十二條、第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十二條、第百四十三條、第百四十七條乃至第百五十七條、第百七十五條乃至第百七十七條及第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ負債整理組合ニ之ヲ準用ス但シ産業組合法第九十三條ノ二中三百圓トアルハ二百圓トシ民法第四十八條及第七十七條中一週間トアルハ二週間トス

産業組合法第十一條、第十二條、第十七條第一項、第十八條乃至第二十一條、第四十條乃至第四十二條、第四十五條、第四十八條、第五十三條、第五十六條及第五十七條ノ規定ハ保證責任ノ負債整理組合ニ之ヲ準用ス

第二十五條　負債整理組合ノ理事又ハ監事何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス組合ノ事業ノ範圍外ニ於テ貸付ヲ爲シ又ハ投機取引ノ爲ニ組合財産ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ刑法ニ正條アル場合ハ之ヲ適用セス

第三章　負債整理事業資金特別融通及損失補償

第二十六條　市町村ハ負債整理事業ヲ助成スル爲必要アリト認ムルトキハ負債整理組合又ハ第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ニ對シ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得

第二十七條　市町村カ前條ノ規定ニ依リ特別融通ヲ爲スコトヲ得ル期間ハ本法施行ノ日ヨリ五年間トシ其ノ融通ノ期限ハ本法施行ノ日ヨリ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十八條　北海道府縣ハ第二十六條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲スニ因リ市町村カ損失ヲ受ケタルトキハ之ニ對シ其ノ特別融通總額ノ十分ノ三以內ノ金額（損失補償金）ヲ補償スルノ契約ヲ爲スコトヲ得

前項ノ損失ヲ決定スル基準ハ主務大臣大藏大臣ニ協議シテ之ヲ定ム

第二十九條　政府ハ前條ノ損失補償ノ契約ニ基キ北海道府縣カ損失補償ヲ爲シタルトキ之ニ對シ其ノ損失補償金ノ半額ニ相當スル金額ヲ補給スルノ契約ヲ爲スコトヲ得但シ補給金ノ總額ハ三千萬圓ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十條　第二十八條ノ規定ニ依リ北海道府縣カ市町村ニ對シテ爲ス損失補償ノ契約ニ於テハ北海道府縣ノ損失補償金中其ノ四分ノ一ニ相當スル金額ヲ當該市町村ニ於テ負擔スヘキ旨ヲ定ムヘシ但シ特別ノ事由アルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ市町村ノ負擔スヘキ金額ノ割合ニ付別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　第二十六條ノ規定ニ依ル特別融通ヲ爲シタルニ因リ市町村ノ受ケタル損失及其ノ額ハ負債整理事業資金特別融通損失審査會之ヲ決定ス

負債整理事業資金特別融通損失審査會ノ組織及權限ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十二條　第二十九條ノ契約ニ基キ政府カ北海道府縣ニ對シ支拂フヘキ補給金ハ國債證券ヲ以テ之ヲ交付スルコトヲ得

第三十三條　政府ハ前條ノ規定ニ依リ交付スル爲必要ナル額ヲ限度トシ公債ヲ發行スコトヲ得

第三十四條　本法ニ依リ交付スル國債證券ノ交付價格ハ時價ヲ參酌シテ大藏大臣之ヲ定ム

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十九條但書中「第十四號」ヲ「第十四號乃至第十六號」ニ改メ同條第八號中「自作農ノ創設維持」ノ下ニ「又ハ負債整理」ヲ加ヘ「又ハ産業組合聯合會」ヲ「産業組合聯合會、負債整理組合又ハ農村負債整理事業ヲ行フ法人」ニ改メ同條ニ左ノ二號ヲ加フ

十五　市町村、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人カ負債整理事業資金貸付ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十六　市町村、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ヨリ負債整理事業資金ノ貸付ヲ受ケタル者ガ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セザルニ至リタル場合ニ於ケル市町村、負債整理組合又ハ農村負債整理組合法第八條ノ規定ニ依リ負債整理事業ヲ行フ法人ノ所有權ノ取得ノ登記

二七　農業動産信用法

昭和八年三月二十九日法律第三十號

第一章　總則

第一條　本法ニ於テ農業トハ耕作、養畜又ハ養蠶ノ業務及之ニ附隨スル業務ヲ謂フ

水産動植物ノ採捕若ハ養殖又ハ薪炭生産ノ業務及之ニ附隨スル業務ハ本法ノ適用ニ關シテハ之ヲ農業ト看做ス

第二條　本法ニ於テ農業用動産トハ農業ノ經營ノ用ニ供スル動産ヲ謂フ

前項ノ農業用動産ノ範圍ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三條　本法ノ先取特權又ハ農業用動産ノ抵當權ヲ取得スルコトヲ得ル者ハ信用組合及勅令ヲ以テ定ムル法人ニ限ル

第二章　農業經營資金貸付ノ先取特權

第四條　信用組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人カ農業ヲ爲ス者ニ對シ左ニ掲クル行爲ヲ爲スニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ其ノ債權ノ元本及利息ニ付債務者ノ特定動産ノ上ニ先取特權ヲ有ス

一　農業用動産又ハ農業生産物ノ保存

二　農業用動産ノ購入

三　種苗又ハ肥料ノ購入

四　蠶種又ハ桑葉ノ購入

五　薪炭原木ノ購入

六　命令ヲ以テ定ムル水產養殖用ノ種苗又ハ餌料ノ購入

前項ノ法人カ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シ其ノ農業用動産ヲ保存シ又ハ購入スル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ヲ爲シタルトキ亦前項ニ同シ

第五條　農業用動産保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業生產物ノ上ニ存在ス

農業生產物保存資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ保存シタル農業生產物ノ上ニ存在ス

前二項ノ先取特權ハ農業用動產又ハ農業生產物ニ關スル權利ヲ保存追認又ハ實行セシムル爲ニ必要ナル資金ノ貸付ニ付テモ亦存在ス

第六條　農業用動產購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル農業用動產ノ上ニ存在ス

第七條　種苗又ハ肥料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗又ハ肥料ヲ用ヒタル後一年內ニ之ヲ用ヒタル土地ヨリ生シタル果實ノ上ニ存在ス尙桑樹ノ肥料購入資金貸付ノ先取特權ニ在リテハ其ノ果實タル桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニモ亦存在ス

第八條　蠶種又ハ桑葉ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル蠶種又ハ桑葉ヨリ生シタル物ノ上ニ存在ス

第九條　薪炭原木購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以

テ購入シタル薪炭原木ヨリ生産シタル薪炭ノ上ニ存在ス

第十條　水産養殖用種苗購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル種苗ヲ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

水産養殖用餌料購入資金貸付ノ先取特權ハ貸付ヲ受ケタル資金ヲ以テ購入シタル餌料ヲ用ヒテ養殖シタル物ノ上ニ存在ス

第十一條　先取特權ノ優先權ノ順位ニ付テハ農業用動産又ハ農業生産物ノ保存資金貸付ノ先取特權ハ動産保存ノ先取特權ト、農業用動産又ハ薪炭原木ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ動産賣買ノ先取特權ト、種苗若ハ肥料、蠶種若ハ桑葉又ハ水産養殖用ノ種苗若ハ餌料ノ購入資金貸付ノ先取特權ハ種苗肥料供給ノ先取特權ト看做ス

第三章　農業用動産ノ抵當權

第十二條　農業用動産ハ農業ヲ爲ス者又ハ農事實行組合、養蠶實行組合其ノ他勅令ヲ以テ定ムル法人カ信用組合又ハ勅令ヲ以テ定ムル法人ニ對シテ負擔スル債務ヲ擔保スル場合ニ限リ之ヲ目的トシテ抵當權ヲ設定スルコトヲ得

農業用動産ノ抵當權ニハ本法其ノ他ノ法令ニ別段ノ定アルモノノ外不動産ノ抵當權ニ關スル規定ヲ準用ス但シ民法第三百七十八條乃至第三百八十七條ノ規定ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　農業用動産ノ抵當權ノ得喪及變更ハ其ノ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

前項ノ規定ハ登記ノ後ト雖モ民法第百九十二條乃至第百九十四條ノ規定ノ適用ヲ妨ケス

第一項ノ登記ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　抵當權ノ目的タル農業用動産ノ所有者カ之ヲ讓渡セントスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ讓受人ニ對シ抵當權ノ存在スル旨ヲ告知スルコトヲ要ス

前項ノ規定ハ抵當權ノ目的タル農業用動産ヲ他ノ債務ノ擔保ニ供セントスルトキニ之ヲ準用ス

第十五條　抵當權ノ目的タル農業用動產ノ所有者カ之ヲ讓渡シ又ハ他ノ債務ノ擔保ニ供シタル場合ニ於テハ遲滯ナク前條ノ告知ヲ爲シタル旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

抵當權ノ目的タル農業用動產ニ付第三者カ差押ヲ爲シタル場合ニ於テハ其ノ所有者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ抵當權者ニ告知スルコトヲ要ス

第十六條　先取特權ト農業用動產ノ抵當權ト競合スル場合ニ於テハ抵當權者ハ民法第三百三十條ニ揭クル第一順位ノ先取特權者ト同一ノ權利ヲ有ス

第十七條　農業用動產ノ抵當權ノ實行ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四章　罰則

第十八條　抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ抵當權ノ目的タル農業用動產ヲ損傷シ又ハ隱匿シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ所有者ノ意思ニ反シテ損傷シタル者ニ付テハ刑法ニ

依ル

第十九條　抵當權ノ目的タル農業用動產ノ所有者抵當權者ニ損害ヲ加フル目的ヲ以テ該動產ニ關シ讓渡、質入其ノ他抵當權ヲ侵害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ動產所有者ノ代表者又ハ代理人本人ノ爲ニ前項ノ行爲ヲ爲シタルトキ亦同シ

第二十條　前二條ノ罪ハ告訴ヲ待テ之ヲ論ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第三條ノ六ノ次ニ左ノ一條ヲ加フ

第三條ノ七　農業用動產ノ抵當權ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

	債權金額	千分ノ二
一	抵當權ノ取得	

但シ稅額金二十錢未滿ナルトキハ二十錢トス

二　抹消シタル登記ノ回復　農業用動産每一箇　金十錢
三　假登記　農業用動産每一箇　金十錢
四　附記登記　農業用動産每一箇　金五錢
但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス
五　登記ノ更正、變更又ハ抹消　農業用動産每一箇　金十錢
但シ一件ニ付稅額金一圓ヲ超ユルトキハ一圓トス

六　製絲業法抄

昭和七年九月六日法律第二十九號
改正昭和八年三月二十九日法律第三十一號

第一條　本法ニ於テ製絲業者トハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外器械生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ謂フ
器械生絲ノ製造工場ヲ有スル產業組合及產業組合聯合會ハ命令ヲ以テ規定スルモノヲ除クノ外第二條乃至第十一條及附則第二項ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ製絲業者ト看做ス
第二條　製絲業者タラントスル者ハ主務大臣ノ免許ヲ受クヘシ
前項ノ免許ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
第三條　主務大臣ハ製絲業者ニ對シ製絲業ノ統制上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得
第四條　製絲業者免許ヲ受ケタル日ヨリ二年以內ニ事業ヲ開始セサルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得
製絲業者引續キ二年以上其ノ事業ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限スルコトヲ得
第五條　製絲業者ノ所爲ニシテ本法ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ免許ヲ取消シ又ハ其ノ事業ヲ制限シ若ハ停止スルコトヲ得

第六條　主務大臣又ハ地方長官取締上必要アリト認ムルトキハ製絲業者ニ對シ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ又ハ當該官吏ヲシテ事務所、營業所、工場、倉庫其ノ他ノ場所ニ臨檢シ若ハ帳簿物件ヲ檢査セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ當該官吏ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶スヘシ

第七條　第二條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者

二　第四條第二項ノ規定ニ依ル制限又ハ第五條ノ規定ニ依ル制限若ハ停止ノ處分ニ違反シタル者

三　正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル臨檢檢査ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者

第九條　製絲業者正當ノ理由ナクシテ第六條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リタルトキハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　製絲業者ノ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル場合ニ於テ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ノ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十一條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ製絲業者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他ノ法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

（第十二條以下略）

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際現ニ製絲業者タル者又ハ其ノ承繼人ハ命令ノ定ムル所ニ依リ本法施行ノ日ヨリ之ヲ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

二九　製絲業法施行規則抄

昭和七年十月十五日
農林省令第三十二號

第一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ製絲業法第一條第一項ノ製絲業者ヨリ之ヲ除外ス

一　利用組合ノ有スル器械生絲ノ製造工場（製絲工場）ヲ利用シテノミ生絲ノ製造ヲ業トスル者

二　他ノ製絲業者ニ委託シテノミ生絲ノ製造ヲ業トスル者

第二條　製造業法第二條ノ免許ハ製絲工場毎ニ之ヲ爲スモノトス

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ヲ爲サス

一　揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ場合ヲ除クノ外製絲工場ニ百五十釜以上ノ繰絲機ヲ備ヘサルトキ

二　免許申請者カ製絲業ノ免許ヲ取消サレ又ハ事業ノ制限ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者ナルトキ

三　免許申請者カ製絲業法第五條ノ規定ニ依リ事業ノ停止ヲ受ケ事業休止中ノ者ナルトキ

四　免許申請者カ製絲業法第七條乃至第九條ノ規定ニ依リ處罰ヲ受ケタル後一年ヲ經過セサル者ナルトキ

五　前各號ノ外農林大臣ニ於テ不適當ト認ムルトキ

前項第一號ノ規定ハ自家用生絲ノ製造ノミヲ行フ製絲工場ニ付テハ之ヲ適用セス

農林大臣特別ノ事由アリト認ムルトキハ產業組合又ハ產業組合聯合會ノ製絲工場ニシテ百五十釜未滿百釜以上ノ繰絲機ヲ備フルモノニ付製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルヘシ

第四條　製絲業ノ免許申請書ニハ左ニ掲クル書類ヲ添附スヘシ

一　事業計畫書
二　設備要領書

三　免許ヲ受ケントスル者法人ナルトキハ定款、登記簿ノ謄本、財産目錄及貸借對照表

四　二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ事業ニ關スル各共同者ノ出資額及權利義務ノ關係ヲ記載シタル書類

五　製絲業以外ノ事業ヲ兼營スル場合ニ於テハ其ノ兼營事業ノ大要ヲ記載シタル書類

二人以上共同シテ免許ヲ受ケントスルトキハ內一人ヲ代表者ト定メ其ノ氏名又ハ名稱ヲ免許申請書ニ記載スヘシ

第一項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ノ事業計畫書ニハ左ニ揭ク事項ヲ記載スヘシ

一　製絲工場ノ所在場所

二　揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハサル場合ニ於テハ之ヲ行フ製絲工場ノ名稱及所在場所

三　一年間ノ原料繭消費見込數量

四　一年間ノ目的纖度別生絲製造見込數量

五　從業員ノ種類及員數

六　起業費ノ收支概算

七　事業ノ收支概算

八　事業開始ノ豫定年月日

揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ製絲工場ノ事業計畫書ニハ前項第一號及第五號乃至第八號ニ揭クル事項ノ外左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　一年間ノ生絲取扱見込數量

二　取扱生絲ニ付繰絲ノ工程ヲ行フ工場ノ名稱、所在場所及一年間ノ目的纖度別生絲製造見込數量

第六條　設備要領書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　建物ノ種類及面積竝ニ構造ノ概要
二　繰絲機ノ名稱、釜數及緒數
三　揚返機ノ窓數
四　煮繭機ノ名稱、煮繭能力及臺數
五　生絲ノ整理及檢査ニ關スル設備ノ種類、名稱及員數
六　繭ノ乾燥及貯藏ニ關スル設備ノ名稱、能力及員數

前項ノ設備要領書ニハ敷地內ノ建物及設備ノ配置圖竝ニ敷地附近ノ概況圖ヲ添附スヘシ

第七條　製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハサル製絲工場ニ於テ新ニ揚返又ハ束裝以後ノ工程ヲ行ハントスルトキ
二　繰絲機又ハ揚返機ヲ增設シ又ハ廢棄セントスルトキ

前項ノ認可申請書ニハ設備要領書竝ニ事業ノ擴張又ハ繰絲機若ハ揚返機ノ增設若ハ廢棄ニ伴フ起業費ノ收支概算及事業ノ收支概算ヲ記載シタル書類ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ前項ノ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第八條　左ニ揭クル場合ニ於テハ製絲業ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ但シ第一號ノ場合ニ於テ其ノ相續人又ハ合併後存續スル法人若ハ合併ニ因ツテ設立シタル法人カ引續キ其ノ事業ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

一　製絲業者死亡シ又ハ解散シタルトキ
二　免許ヲ受ケタル製絲工場ニ付事業ノ廢止アリタルトキ
三　免許ヲ受ケタル製絲工場滅失シタルトキ

前項但書ノ場合ニ於テハ左ニ揭クル書類ヲ具シ死亡又ハ解散ノ日ヨリ三十日內ニ農林大臣ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

一　相續又ハ合併アリタルコトヲ證スル書類
二　合併後存續スル法人又ハ合併ニ因リテ設立シタル法人ニ在リテ

ハ定款、財産目錄及貸借對照表

第九條　製絲業者ハ毎年七月三十一日迄ニ前年六月一日ヨリ當年五月三十一日迄ノ一年間ノ事業概況書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十條　左ニ揭ケル場合ニ於テハ製絲業者ハ遲滯ナク農林大臣ニ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

一　製絲業者其ノ氏名若ハ名稱又ハ住所若ハ事務所ヲ變更シタルトキ

二　製絲業者タル法人其ノ定款ヲ變更シタルトキ

三　製絲業者其ノ事業ヲ開始シタルトキ

四　製絲業者タル法人ノ代表者又ハ第四條第二項ノ代表者ニ變更アリタルトキ

五　製絲業者製絲工場ノ名稱ヲ定メタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

六　製絲業者其ノ事業ヲ休止シ又ハ休止シタル事業ヲ再ヒ開始シタルトキ

七　製絲業者其ノ事業ヲ廢止シタルトキ

八　製絲工場ノ全部又ハ一部滅失シタルトキ

九　製絲業者タル法人其ノ組織ヲ變更シタルトキ

十　製絲業者製絲工場ニ付一切ノ權限ヲ有スル工場管理人ヲ置キタルトキ又ハ之ヲ變更シタルトキ

十一　製絲業者製絲業以外ノ事業ヲ新ニ兼營シタルトキ又ハ兼營事業ヲ廢止シタルトキ

前項第九號ノ場合ニ於テハ組織變更アリタルコトヲ證スル書類、定款、財産目錄及貸借對照表ヲ具シ其ノ屆出ヲ爲スヘシ

第十一條　製絲業法第六條第二項ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

第十二條　本則ノ適用ニ關シ多條繰絲機（十以上ノ緒ヲ備フル繰絲機ヲ謂フ）ノ釜數ノ計算ニ付テハ釜數ヲ計算スヘキ多條繰絲機ヲ通シ總緒數ヲ十ヲ以テ除シタル數ヲ以テ其ノ釜數トス

第十三條　製絲業法又ハ本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ製絲工場ノ所在地ヲ管轄スル地方長官ヲ經由スヘシ

第十四條　製絲業者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　免許又ハ認可ノ條件ニ違反シタルトキ

第十五條　製絲業者本則ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ場合ニ於テ届出ヲ怠リタルトキハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

附　則

第十六條　本令ハ製絲業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十七條　製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ニ依ヲ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者及其ノ包括承繼人トス

一　製絲業法施行ノ際現ニ製絲業ヲ行フ目的ヲ以テ製絲工場ヲ有ス

ル者

二　製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ヲ有スル産業組合及産業組合聯合會

三　製絲業法施行ノ際現ニ製絲工場ノ建設工事ヲ實施シツツアル者

第十八條　前條ノ規定ニ該當スル者ハ製絲業法施行ノ日ヨリ二月内ニ製絲工場毎ニ左ニ掲クル事項ヲ具シ農林大臣ニ届出ツヘシ

一　最近二年間ニ於ケル事業ノ概況

二　前條第三號ニ該當スル者ニ在リテハ製絲工場ノ建設工事ニ著手シタル年月日其ノ工事進捗ノ程度及事業開始ノ豫定年月日

第四條ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

前項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スヘキ事業計畫書ニハ繰絲ノ工程ヲ行フ製絲工場ニ在リテハ第五條第一號乃至第五號ニ掲クル事項ヲ揚返又ハ束裝以後ノ工程ノミヲ行フ製絲工場ニ在リテハ同條同項第一號及第五號竝ニ同條第二項各號ニ掲クル事項ヲ記載スヘシ

第六條ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依リ届出ニ添附スヘキ設備要領書ニ之ヲ準用ス

第十九條　左ニ掲クル場合ニ於テハ農林大臣ハ第三條第一項第一號ノ規定ニ拘ラス製絲業ノ免許ヲ爲スコトアルヘシ

一　本令施行前一年内ニ滅失シタル製絲工場ヲ有シタル者又ハ其ノ包括承繼人同一場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付本令施行ノ日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

二　本令施行ノ際貸付中ナリシ製絲工場ノ返還ヲ受ケ製絲業ヲ行ハントスル者其ノ製絲工場ニ付製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

三　製絲業法附則第二項ノ規定ニ基キ同法ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做サルル者又ハ前二號ノ規定ニ依リ免許ヲ受ケタル者當該製絲工場滅失シタル爲同一場所ニ於ケル同等以上ノ規模ノ製絲工場ニ付滅失シタル日ヨリ一年内ニ製絲業ノ免許ヲ申請シタルトキ

前項ノ免許申請書ニハ第四條乃至第六條ノ規定ニ依ル書類ノ外同項第一號又ハ第三號ノ場合ニ在リテハ滅失ノ時期及原因竝ニ滅失シタル製絲工場ノ設備ノ概要ヲ記載シタル書類ヲ、同項第二號ノ場合ニ在リテハ本令施行ノ際貸付中ナリシコトヲ證スル書類ヲ添附スヘシ

別記様式

表

第　號　　年　月　日　交付

製絲業法第六條第二項ノ規定ニ依ル證票

官　農林省又ハ道府縣印

職　氏　名

縦八・五糎

横六・〇糎

三〇 蠶絲業組合法抄

昭和六年三月二十八日法律第二十四號

第一章 蠶絲業組合

第一節 總則

第一條 蠶絲業組合ハ左ノ六種トス

一 養蠶業組合
二 蠶種業組合
三 產業組合製絲組合
四 製絲業組合
五 生絲問屋業組合
六 生絲輸出業組合

第二條 蠶絲業組合ハ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ以テ目的トス

第三條 蠶絲業組合ハ法人トス

第四條 蠶絲業組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 蠶絲業組合ノ名稱中ニハ其ノ種類ニ從ヒ養蠶業組合、蠶絲業組合、產業組合製絲組合、製絲業組合、生絲問屋業組合又ハ生絲輸出業組合ナル文字ヲ用フヘシ

蠶絲業組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭クル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第二節 養蠶業組合

第十六條 養蠶業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一 蠶品種ノ統一ニ關スル施設
二 養蠶業ノ指導奬勵ニ關スル施設
三 繭ノ檢查ニ關スル施設
四 繭ノ取引方法ノ改善ニ關スル施設
五 蠶病ノ豫防ニ關スル施設
六 養蠶業ニ關スル研究及調查
七 養蠶業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
八 前各號ニ揭クルモノノ外養蠶業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第十七條 養蠶業組合ノ地區ハ郡市ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ其ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ區域ニ增減アリタルトキハ其區域ヲ地區トスル養蠶業組合ノ地區モ亦之ニ應シテ增減アリタルモノトス

第十八條 養蠶業組合ハ其ノ地區內ノ養蠶實行組合ヲ以テ其ノ組合員トス

第十九條 養蠶實行組合ハ一定ノ地區內ノ養蠶者ヲ以テ之ヲ組織シ養蠶業ニ關シ組合員ノ

共同ノ利益增進ヲ圖ルヲ以テ目的トス

養蠶實行組合ハ法人トス

養蠶實行組合ノ地區ハ市町村ノ區域ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十條　養蠶實行組合ハ其ノ名稱中ニ養蠶實行組合ナル文字ヲ用フヘシ

養蠶實行組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ前項ニ揭クル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第二十一條　養蠶實行組合ヲ設立スルニハ其ノ地區內ノ養蠶者七人以上設立者ト爲リ規約ヲ作製スルコトヲ要ス

規約ニハ左ニ揭グル事項ヲ記載シ設立者之ニ署名又ハ記名捺印スルコトヲ要ス

一　目的

二　名稱

三　地區

四　事務所ノ所在地

五　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

六　事業及其ノ執行ニ關スル規定

七　役員ニ關スル規定

八　組合費其ノ他會計及資產ニ關スル規定

九　損失分擔ニ關スル規定

十　組合カ公告ヲ爲ス方法

十一　存立時期又ハ解散ノ事由

第二十二條　養蠶實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以內ニ規約、役員ノ氏名及住所竝ニ設立ノ年月日ヲ具シ行政官廳ニ之ヲ屆出ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ屆出テタル事項ニ變更アリタルトキハ其ノ變更ノ日ヨリ二週間以內ニ之ヲ屆出ツヘシ

第二十三條　養蠶實行組合ハ其ノ設立ノ日ヨリ二週間以內ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ設立ノ登記ヲ爲スヘシ

一　第二十一條第二項第一號及第四號ニ揭クル事項

二　設立ノ年月日

三　理事ノ氏名及住所

前項ニ揭クル事項ニ變更アリタルトキハ二週間以內ニ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十四條　本法ニ依リ登記スヘキ事項ハ其ノ登記前ニ在リテハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十五條　養蠶實行組合カ本法ニ基キテ爲ス登記ニ付テハ登錄稅ヲ課セス

第二十六條　民法第三十八條第一項、第四十四條、第四十八條、第五十條乃至第六十六條第六十八條乃至第七十條及第七十二條乃至第八十二條竝ニ非訟事件手續法第三十五條、

第三十六條、第三十七條ノ二、第百十九條乃至第百二十二條、第百三十六條乃至第百三十八條、第百四十二條、第百四十三條、第百四十七條乃至第百五十條、第百五十三條乃至第百五十五條乃至第百七十七條ノ規定ハ養蠶實行組合ニ之ヲ準用ス

民法第三十八條第一項　社團法人ノ定款ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ同意アルトキニ限リ之ヲ變更スルコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此ノ限ニ在ラス

同第四十四條　法人ハ理事其他ノ代理人カ其職務ヲ行フニ付キ他人ニ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

法人ノ目的ノ範圍內ニ在ラサル行爲ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其ノ事項ノ議決ヲ贊成シタル社員、理事及ヒ之ヲ履行シタル理事其他ノ代理人連帶シテ其ノ賠償ノ責ニ任ス

同第四十八條　法人カ其ノ事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間內ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間內ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域內ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

同第五十條　法人ノ住所ハ其主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

同第五十一條　法人ハ設立ノ時及ヒ每年初ノ三个月內ニ財產目錄ヲ作リ常ニ之ヲ事務所ニ備ヘ置クコトヲ要ス但特ニ事業年度ヲ設クルモノハ設立ノ時及ヒ其年度ノ終ニ於テ之ヲ作ルコトヲ要ス

社團法人ハ社員名簿ヲ備ヘ置キ社員ノ變更アル每ニ之ヲ訂正スルコトヲ要ス

同第五十二條　法人ニハ一人又ハ數人ノ理事ヲ置クコトヲ要ス

理事數人アル場合ニ於テ定數又ハ寄附行爲ニ別段ノ定ナキトキハ法人ノ事務ハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

同第五十三條　理事ハ總テ法人ノ事務ニ付法人ヲ代表ス但定款ノ規定又ハ寄附行爲ノ趣旨ニ違反スルコトヲ得ス又社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ニ從フコトヲ要ス

同第五十四條　理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

同第五十五條　理事ハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限リ特定ノ行爲ノ代理ヲ他人ニ委任スルコトヲ得

同第五十六條　理事ノ缺ケタル場合ニ於テ遲滯ノ爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リ假理事ヲ選任ス

同第五十七條　法人ト理事トノ利益相反スル事項ニ付テハ理事ハ代理權ヲ有セス此ノ場

合ニ於テハ前條ノ規定ニ依リテ特別代理人ヲ選任スルコトヲ要ス

同第五十八條　法人ニハ定款、寄附行爲又ハ總會ノ決議ヲ以テ一人又ハ數人ノ監事ヲ置クコトヲ得

同第五十九條　監事ノ職務左ノ如シ

一　法人ノ財產ノ狀況ヲ監査スルコト

二　理事ノ業務執行ノ狀況ヲ監査スルコト

三　財產ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付キ不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ總會又ハ主務官廳ニ報告スルコト

四　前號ノ報告ヲ爲ス爲メ必要アルトキハ總會ヲ招集スルコト

同第六十條　社團法人ノ理事ハ少クトモ毎年一回社員ノ通常總會ヲ開クコトヲ要ス

同第六十一條　社團法人ノ理事ハ必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ臨時總會ヲ招集スルコトヲ得

總社員ノ五分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ臨時總會ヲ招集スルコトヲ要ス但此定數ハ定款ヲ以テ增減スルコトヲ得

同第六十二條　總會ノ招集ハ少クトモ五日前ニ其ノ會議ノ目的タル事項ヲ示シ定款ニ定メタル方法ニ從ヒテ之ヲ爲スコトヲ要ス

同第六十三條　社團法人ノ事務ハ定款ヲ以テ理事其他ノ役員ニ委任シタルモノヲ除ク外總テ總會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

同第六十四條　總會ニ於テハ第六十二條ノ規定ニ依リテ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スコトヲ得但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニアラス

同第六十五條　各社員ノ表決權ハ平等ナルモノトス

總會ニ出席セサル社員ハ書面ヲ以テ表決ヲ爲シ又ハ代理人ヲ出スコトヲ得

前二項ノ規定ハ定款ニ別段ノ定アル場合ニハ之ヲ適用セス

同第六十六條　社團法人ト或社員トノ關係ニ付キ議決ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ社員ハ表決權ヲ有セス

同第六十八條　法人ハ左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　定款又ハ寄附行爲ヲ以テ定メタル解散事由ノ發生

二　法人ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

三　破　產

四　設立許可ノ取消

社團法人ハ前項ニ揭ケタル場合ノ外左ノ事由ニ因リテ解散ス

一　總會ノ決議

二　社員ノ缺亡

同第六十九條　社團法人ハ總社員ノ四分ノ三以上ノ承諾アルニ非サレハ解散ノ決議ヲ爲

スコトヲ得ス但定款ニ別段ノ定アルトキハ此限ニ在ラス

同第七十條　法人カ其債務ヲ完濟スルコト能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ理事若クハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ理事ハ直チニ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

同第七十二條　解散シタル法人ノ財產ハ定款又ハ寄附行爲ヲ以テ指定シタル人ニ歸屬ス

定款又ハ寄附行爲ヲ以テ歸屬權利者ヲ指定セス又ハ之ヲ指定スル方法ヲ定メサリシトキハ理事ハ主務官廳ノ許可ヲ得テ其法人ノ目的ニ類似セル目的ノ爲メニ其財產ヲ處分スルコトヲ得但社團法人ニ在リテハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

前二項ノ規定ニ依リテ處分セラレサル財產ハ國庫ニ歸屬ス

同第七十三條　解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ其清算ノ結了ニ至ルマテ尙存續スルモノト看做ス

同第七十四條　法人カ解散シタルトキハ破產ノ場合ヲ除ク外理事其清算人ト爲ル但定款若クハ寄附行爲ニ別段ノ定アルトキ又ハ總會ニ於テ他人ヲ選任シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

同第七十五條　前條ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキ又ハ清算人ノ缺ケタル爲メ損害ヲ生スル虞アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ依リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ選任スルコトヲ得

同第七十六條　重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ利害關係人若クハ檢事ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ清算人ヲ解任スルコトヲ得

同第七十七條　清算人ハ破產ノ場合ヲ除ク外解散後一週間內ニ其氏名、住所及解散ノ原因、年月日ノ登記ヲ爲シ又何レノ場合ニ於テモ之ヲ主務官廳ニ屆出ツルコトヲ要ス

算中ニ就職シタル清算人ハ就職後一週間內ニ其ノ氏名、住所ノ登記ヲ爲シ且ツ之ヲ主

同第七十八條　清算人ノ職務左ノ如シ

一　現務ノ結了

二　債權ノ取立及ヒ債務ノ辨濟

三　殘餘財產ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

同第七十九條　清算人ハ其ノ就職ノ日ヨリ二ケ月內ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間內ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二ケ月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間內ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

蠶絲業組合法抄

同第八十條　前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完濟ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財產ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

同第八十一條　淸算中ニ法人ノ財產カ其ノ債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ淸算人ハ直チニ破產宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

淸算人ハ破產管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終ハリタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破產管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

同第八十二條　法人ノ解散及ヒ淸算ハ裁判所ノ監督ニ屬ス

裁判所ハ何時ニテモ職權ヲ以テ前項ノ監督ニ必要ナル檢查ヲ爲スコトヲ得

非訟事件手續法第三十五條　假理事又特別代理人ノ選任ハ法人ノ主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス法人ノ解散及淸算ノ監督ハ其主タル事務所所在地ノ區裁判所ノ管轄トス

同第三十六條　裁判所ハ特ニ選任シタル者ヲシテ法人ノ監督ニ必要ナル檢查ヲ爲サシムルコトヲ得

同第三十七條ノ二　第百二十九條ノ三及ヒ第百二十九條ノ四ノ規定ハ裁判所カ法人ノ淸算人又ハ第三十六條ノ規定ニ依リ檢查ヲ爲スヘキ者ヲ選任シタル場合ニ之ヲ準用ス

同第百二十九條ノ三　商法第百二十四條又ハ第百九十八條ノ規定ニ依リ裁判所カ檢查役

ヲ選任シタル場合ニ於テハ會社ヲシテ之ニ報酬ヲ與ヘシムルコトヲ得其ノ額ハ取締役及ヒ監查役ノ陳述ヲ聽キ裁判所之ヲ定ム

同第百二十九條ノ四　前二條ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

商法第百二十四條　取締役ハ其選任後遲滯ナク第百二十二條第三號乃至第五號ニ揭ケタル事項及ヒ第一回ノ拂込ヲ爲シタルヤ否ヤヲ調查セシムル爲檢查役ノ選任ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ要ス

裁判所ハ檢查役ノ報告ヲ聽キ第百三十五條ノ規定ニ準據シテ相當ノ處分ヲ爲スコトヲ得

同第百九十八條　裁判所ハ資本ノ十分ノ一以上ニ當リタル株主ノ請求ニ因リ會社ノ業務及ヒ會社財產ノ狀況ヲ調查セシムル爲メ檢查役ヲ選任スルコト得

檢查役ハ其ノ調查ノ結果ヲ裁判所ニ報告スルコトヲ要ス此ノ場合ニ於テ裁判所ハ必要アリト認ムルトキハ監查役ヲシテ株主總會ヲ招集セシムルコトヲ得此ノ總會ニ於テハ前項ノ調查ヲ爲サシムル爲メ特ニ檢查役ヲ選任スルコトヲ得

同第百二十二條　左ニ揭ケタル事項ヲ定メタルトキハ之ヲ定款ニ記載スルニ非サレハ其效ナシ

三　發起人カ受クヘキ特別ノ利益及ヒ之ヲ受クヘキ者ノ氏名

蠶絲業組合法抄

四　金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者ノ氏名、其財産ノ種類、價格及ヒ之ニ對シテ與フル株式ノ數

五　會社ノ負擔ニ歸スヘキ設立費用及ヒ發起人カ受クヘキ報酬ノ額

同第百三十五條　創立總會ニ於テ第百二十二條第三號乃至第五號ニ掲ケル事項ヲ不當ト認メタルトキハ之ヲ變更スルコトヲ得但金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲ス者アル場合ニ於テ之ニ對シテ與フル株式ノ數ヲ減シタルトキハ其者ハ金錢ヲ以テ拂込ヲ爲スコトヲ得

非訟事件手續法第百十七條　法人ノ登記ニ付テハ法人ノ事務所所在地ノ區裁判所又ハ其出張所ヲ以テ管轄登記所トス

同第百十九條　各登記所ニ法人登記簿及ヒ夫婦財産契約登記簿ヲ備フ

同第百二十條　法人設立ノ登記ハ理事ノ全員ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ定款、理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ主務官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百二十一條　事務所ノ新設又ハ事務所ノ移轉其ノ他登記事項ノ變更ノ登記ハ理事、申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ理事又ハ假理事ノ資格ヲ證スル書面及ヒ事務所ノ新設又ハ登記事項ノ變更ヲ證スル書面ヲ添附シ且主務官廳ノ許可ヲ要スルモノニ付テハ其許可書又ハ其認證ア

ル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

前ニ登記ノ申請ヲ爲シタル理事又ハ假理事カ同一登記所ニ第一項ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ其資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要セス

同第百二十二條　法人ノ解散ノ登記ハ清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ解散ノ事由ヲ證スル書面及ヒ理事カ清算人タラサル場合ニ於テハ清算人ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百三十六條　清算人ノ選任又ハ解任ニ關スル事件ハ會社ノ本店所在地ノ區裁判所ノ管轄トス銀行ノ清算ノ監督亦同シ

同第百三十七條　清算人ノ選任又ハ解任ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

裁判所カ銀行ノ清算ノ監督ニ付キ爲シタル命令ニ對シ亦同シ

同第百三十八條　左ニ掲ケタル清算人トシテ之ヲ選任スルコトヲ得ス

一　未成年者

二　禁治産者及ヒ準禁治産者

三　剝奪公權者及ヒ停止公權者

四　裁判所ニ於テ解任セラレタル清算人

五　破産者

同第百四十二條　登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覽ヲ許シ又ハ手數料ヲ納付スルトキハ之

ニ其謄本若クハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其ノ關係アル部分ニ限リ登記簿ノ附屬書類ノ閱覽ヲ許スヘシ

郵送料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

同第百四十三條　登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

同第百四十七條　登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

同第百四十八條　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

同第四百四十八條ノ二　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコトヲ得

同第百四十九條　登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店

二　代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三　登記ノ目的及事由

四　年月日

五　登記所ノ表示

同第百五十條　本章ノ規定ニ依リ連署ヲ以テ申請ヲ爲スヘキ場合ニ於テ正當ノ事由ニ因リ連署スルコト能ハサル者アルトキハ其他ノ者ノミニテ申請ヲ爲スコトヲ得

連署ヲ爲スコト能ハサル事由ハ之ヲ證明スルコトヲ要ス

同第百五十條ノ三　本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ニ付キ支店ノ所在地ニ於テ其登記ヲ申請スルニハ申請書ニ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス此場合ニ於テハ各本條ニ定メタル書類ハ之ヲ添附スルコトヲ要セス

同第百五十一條　登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

同第百五十一條ノ二　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタル者ニ對シ一ケ月ヲ超エサル期間ヲ定メ其ノ期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘ

ン

登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭載セシムルコトヲ得

同第百五十一條ノ三　異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

同第百五十一條ノ四　異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ

同第百五十一條ノ五　前三條ノ規定ハ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ノ登記ニ付テハ本店ノ所在地ニ於テ爲シタル登記ニノミ之ヲ適用ス

前項ノ場合ニ於テ本店所在地ノ登記所カ登記ヲ抹消シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ支店所在地ノ登記所ニ通知スヘシ

支店所在地ノ登記所カ前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク登記ヲ抹消スヘシ

同第百五十一條ノ六　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタル者ニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滯ナク地方裁判所長ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

同第百五十二條　削除

同第百五十三條　削除

同第百五十四條　商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

同第百五十五條　司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

同第百五十六條　登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

同第百五十七條　不動產登記法第十條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及ヒ第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

同第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

同第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及ヒ商法第九十條第二號竝ニ第三號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百七十七條　商法第九十條ニ揭ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

蠶絲業組合法抄

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第九十條　清算人ノ選任アリタルトキハ其ノ清算人ハ二週間内ニ本店及支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　清算人ノ氏名、住所

二　會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其ノ氏名

三　數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其ノ代表ニ關スル規定

非訟事件手續法第二百六條　民法第八十四條、第千百七條及ヒ民法施行法第二十二條及ヒ商法第十八條第二項、第二百六十二條、第二百六十二條ノ二、第五百三十六條及ヒ商法施行法第十一條第二項、第二十七條、第三十九條第二項、第五十四條、第六十條第二項、第六十九條、第七十五條第三項、第八十七條ニ定メタル事件ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所地ノ地方裁判所ノ管轄トス

同第二百七條　過料ノ裁判ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

裁判所ハ裁判ヲ爲ス前當事者ノ陳述ヲ聽キ檢事ノ意見ヲ求ムヘシ

當事者及ヒ檢事ハ過料ノ裁判ニ對シテ即時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ效力ヲ有ス

手續ノ費用ハ過料ニ處スル言渡アリタル場合ニ於テハ其言渡ヲ受ケタル者ノ負擔トシ其ノ他ノ場合ニ於テハ國庫ノ負擔トス

抗告裁判所カ當事者ノ申立ニ相當スル裁判ヲ爲シタルトキハ抗告手續ノ費用及ヒ前審ニ於テ當事者ノ負擔ニ歸シタル費用ハ國庫ノ負擔トス

同第二百八條　過料ノ裁判ハ檢事ノ命令ヲ以テ之ヲ執行ス此命令ハ執行力ヲ有スル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

過料ノ裁判ノ執行ハ民事訴訟法第六編ノ規定ニ從ヒテ之ヲ爲ス但執行ヲ爲ス前裁判ノ送達ヲ爲スコトヲ要セス

第四節　產業組合製絲組合及製絲業組合

第四十六條　產業組合製絲組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　原料繭及其ノ受入方法ノ統一ニ關スル施設

二　生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設

三　產業組合製絲ノ指導奬勵ニ關スル施設

四　生絲ノ檢查ニ關スル施設

五　產業組合製絲ニ關スル研究及調查

六　產業組合製絲ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁

七　前各號ニ揭クルモノノ外產業組合製絲ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十七條　製絲業組合ハ其ノ目的ヲ達スル爲左ノ事業ヲ行フ

一　生絲ニ關スル規格ノ統一ニ關スル施設
二　製絲業ノ指導奬勵ニ關スル施設
三　生絲ノ檢査ニ關スル施設
四　製絲業ニ從事スル者ノ福利增進ニ關スル施設
五　製絲業ニ關スル研究及調査
六　製絲業ニ關スル紛議ノ調停又ハ仲裁
七　前各號ニ揭クルモノノ外製絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルニ必要ナル施設

第四十八條　產業組合製絲組合及製絲業組合ノ地區ハ道府縣ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十七條第二項ノ規定ハ前項ノ區域ニ增減アリタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十九條　產業組合製絲組合ハ其ノ地區內ニ於テ製絲ヲ爲シ又ハ製絲工場ヲ有スル產業組合及產業組合聯合會ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十條　製絲業組合ハ命令ヲ以テ規定スル者ヲ除クノ外其ノ地區內ニ於テ生絲ノ製造ヲ業トスル者ヲ以テ其ノ組合員トス

第五十一條乃至第二十九條及第三十一條乃至第四十條ノ規定ハ產業組合製絲組合及製絲業組合ニ之ヲ準用ス

第二章　蠶絲業組合聯合會

第五十七條　蠶絲業組合聯合會ハ左ノ七種トス

一　道府縣養蠶業組合聯合會
二　全國養蠶業組合聯合會
三　全國蠶種業組合聯合會
四　全國產業組合製絲業組合聯合會
五　全國製絲業組合聯合會
六　全國生絲問屋業組合聯合會
七　全國生絲輸出業組合聯合會

第五十八條　蠶絲業組合聯合會ハ蠶絲業組合又ハ道府縣蠶業組合聯合會ノ聯絡ヲ圖リ其ノ共同ノ目的ヲ達成スルヲ以テ目的トス

第五十九條　蠶絲業組合聯合會ハ法人トス

第三章　日本中央蠶絲會

第六十條　日本中央蠶絲會ハ蠶絲業組合聯合會及蠶絲業組合ノ聯絡竝ニ蠶絲業ノ改良發達及統制ヲ圖ルヲ目的トス

第七十條　日本中央蠶絲會ハ法人トス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

三　日本勸業銀行法抄

明治二十九年四月法律第八十二號
改正同四十四年三月法律第二十六號
改正大正六年七月法律第十七號
改正同九年八月法律第十八號
改正同十二年四月法律第四十三號
改正明治三十三年三月法律第三十九號
改正大正四年六月法律第二十一號
改正同七年四月法律第二十五號
改正同十一年四月法律第八十一號
改正昭和六年三月法律第二十一號

第十五條第三項　產業組合、生絲共同施設組合、漁業組合、森林組合、畜產組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會ニハ抵當ヲ徵セスシテ定期償還貸付若ハ年賦償還貸付ヲ爲スコトヲ得

第十五條ノ二　日本勸業銀行ハ劃增金附勸業債券ノ發行ニ依リテ得タル資金ハ田、畑、鹽田、山林、牧場若ハ養魚地ヲ抵當トシ又ハ之ヲ抵當トスル債權（抵當證券ヲ含ム）ヲ質トスル貸付漁業權ヲ抵當トスル貸付、第十五條各項ノ貸付及農工債券又ハ產業債券ノ引受ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ大藏大臣ノ認可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十九條　日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券、產業債券又ハ朝鮮殖產銀行ノ發行スル債券ヲ引受クルコトヲ得

第三十條　日本勸業銀行ハ農工債券、北海道拓殖債券、產業債券又ハ朝鮮殖產銀行ノ發行スル債券ヲ引受ケムトスル場合ニ於テ農工銀行、北海道拓殖銀行、產業組合中央金庫又ハ朝鮮殖產銀行ノ業務及財產ノ實況ヲ調查スルコトヲ得

第三十二條　日本勸業銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

（一號及二號略）

三　產業組合又ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

第三十四條第一項　日本勸業銀行ハ資本金四分ノ一以上ノ拂込アリタルトキハ拂込金額ノ十五倍ヲ限リ勸業債券ヲ發行スルコトヲ得但シ年賦償還貸付金總高、定期償還貸付金總高並其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、產業債券及朝鮮殖產銀行ノ發行シタル債券現在高ヲ超過スルコトヲ得ス

第三十六條第一項　日本勸業銀行ハ少クトモ年賦償還貸付金並其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、產業債券及朝鮮殖產銀行ノ發行シタル債券ノ償還高ニ應シ每年二回以上抽籤ヲ以テ勸業債券ヲ償還スヘシ

第三十九條　日本勸業銀行ハ年賦償還貸付金償還延滯シテ豫期ノ金額ニ達セサルトキ及其ノ引受ケタル農工債券、北海道拓殖債券、產業債券又ハ朝鮮殖產銀行ノ發行シタル債券ニシテ之ヲ發行シタル農工銀行、北海道拓殖銀行、產業組合中央金庫又ハ朝鮮殖產銀行解散ノ爲ニ金額ノ償還ヲ得ルコト能ハサルトキハ第三十六條ノ償還ト同時期ニ抽籤ヲ以テ其延滯金額又ハ償還ヲ得サル農工債券、北海道拓殖債券、產業債券又ハ朝鮮殖產銀行ノ發行シタル債券面金額ニ相當スル勸業債券ヲ償還スヘシ

日本勸業銀行法抄

三三　農工銀行法抄

（明治二十九年法律第八十三號改正同四十年法律第三十八號改正同四十三年法律第三十六號改正大正四年法律第二十二號改正同八年法律第四十九號改正同十年法律第八十二號改正昭和六年法律第二十二號）

第七條ノ五　産業組合、生絲共同施設組合、漁業組合、森林組合、畜産組合又ハ其ノ聯合會ニハ無抵當ニテ第六條第一號又ハ第二號ノ貸付ヲ爲スコトヲ得

（第六條）農工銀行ハ左ノ事業ヲ營ムモノトス

一　五十箇年以内ニ於テ年賦償還ノ方法ニ依リ不動産ヲ抵當トシテ貸付ヲ爲スコト

二　拂込資本金及積立金總高ノ二倍ニ相當スル金額ヲ限リ不動産ヲ抵當トシテ五箇年以内ノ定期償還貸付ヲナスコト

第二十三條　農工銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外前條ノ預リ金又ハ營業上ノ餘裕金ヲ使用スルコトヲ得ス

（一號及二號略）

三　産業組合又ハ其ノ聯合會ニ對シ手形ノ割引又ハ當座預金貸越ヲ爲スコト

（明治三十二年法律第七十六號改正同四十年法律第三十九號改正同四十三年法律第三十七號改正大正四年法律第二十一號改正同六年法律第十九號改正同十一年法律第六十九號）

第八條第四項　産業組合、生絲共同施設組合、漁業組合、森林組合、畜産組合、住宅組合又ハ其ノ聯合會ニハ年賦若ハ定期償還ノ方法ニ依リ無抵當貸付ヲ爲スコトヲ得

三四　貯蓄銀行法抄

（大正十年四月十三日法律第七十四號）

第五條　貯蓄銀行ハ第一條第一項ノ業務ノ外左ニ揭ケル業務ヲ併セ營ムコトヲ得（一號ヨリ三號略）

四　公共團體又ハ産業組合ノ金錢出納事務ノ取扱

五　公共團體又ハ産業組合ヨリノ要求拂預リ金

（參照）

第一條　左ニ揭ケル業務ヲ營ム者ハ之ヲ貯蓄銀行トス

一　複利ノ方法ニ依リ預金ヲ受入ルルコト

農工銀行法抄、北海道拓殖銀行法抄、貯蓄銀行法抄、

三三　北海道拓殖銀行法抄

（明治三十二年法律第七十六號改正同四十年法律第三十九號改正同四十三年法律第三十七號改正大正四年法律第二十一號改正同六年法律第十九號改正同十一年法律第六十九號）

（改正明治三十八年法律第五號改正同四十一年法律第十號改正同四十四年法律第二十九號改正大正五年法律第二十四號改正同九年法律第二十號改正同十二年法律第四號）

二　一回十圓未滿ノ金額ヲ預金トシテ受入ルルコト

三　豫メ拂戻ノ期限ヲ定メ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

四　期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スコトヲ約シ定期ニ又ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ預金ヲ受入ルルコト

貯蓄銀行ニ非サルモノハ前項ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス但シ貯蓄銀行ニ非サル銀行カ預金取引ヲ有スル者ヨリ其ノ者トノ取引ノ結果生シタル十圓未滿ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入レ又ハ小切手ニヨリ支拂ヲ爲スヘキ預金取引ヲ有スル者ヨリ十圓未滿ノ金額ヲ其ノ預金ニ受入ルル場合ハ此ノ限ニ在ラス

三五　郵便貯金法抄

明治三十八年二月法律第二十三號
改正大正九年法律第三十三號
改正大正十二年四月法律第四十五號

第四條　左ニ揭クル預入金ニ付テハ前條第一項第二號ノ制限ヲ適用セス

一　公共團體、社寺、學校又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ノ預入金

二　命令ノ規定ニ依ル共同貯金ノ預入金

三　產業組合又ハ產業組合中央金庫ノ預入金

四　振替計算ノ爲ニスル預入金

（參照）

第三條　一人ノ郵便貯金制限額ハ左ノ如シ

一　一度ノ預入額　十錢以上

二　貯金總額　二千圓以下

一度ノ預入額ノ端數ハ錢位ヲ限トス

三六　郵便貯金規則抄

明治三十八年五月遞信省令第三十六號
改正大正六年十一月遞信省令第四十五號
改正（中略）大正十年遞信省令第四號

第二條　貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ限リ二册以上ノ通帳ヲ所持スルコトヲ得

一　公共團體、社寺、學校、產業組合又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ團體ニシテ目的ノ異ナル貯金ヲ爲ストキ

二　規約貯金ノ預ケ人ニシテ異ナル組合ニ加入スルトキ

三　据置貯金ノ預ケ人ニシテ据置期間異ナル貯金ヲ爲ストキ

四　共同貯金ノ總代人ニシテ目的ノ異ナル貯金ヲ爲ストキ

五　通常貯金、規約貯金、据置貯金中二種以上ノ貯金ヲ爲ストキ

六　通常貯金、規約貯金又ハ据置貯金ノ預ケ人カ共同貯金ノ總代人トナルトキ又ハ共同貯金ノ總代人カ通常貯金、規約貯金若ハ据置貯金ヲ爲ストキ

三七　振替貯金ノ基本預金免除ニ關スル件

昭和六年十二月十日遞信省告示第二四五一號

本月十六日以降郵便振替貯金規則第十四條但書ニ依リ郵便振替貯金ノ加入ニ基本預金ノ拂込ヲ要セサルモノ左ノ如シ

産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會

三八　會計規則抄

大正十一年一月勅令第一號
第七章契約第四節隨意契約

第百十四條　會計法第三十一條第二項ノ規定ニ依ルノ外左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

（自一號至十五號略）

十六　道府縣市町村其ノ他ノ公法人、公益法人、産業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立シタル救育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

（以下略）

三九　所得稅法抄

大正九年七月法律第十一號

第十八條　第三種ノ所得ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニハ所得稅ヲ課セス

（自一號至三號略）

四　郵便貯金、産業組合貯金及銀行貯蓄預金ノ利子

（以下略）

四〇　資本利子稅法抄

大正十五年三月二十七日法律第十二號

第一條　本法施行地ニ於テ資本利子ノ支拂ヲ受クル者ニハ本法ニ依リ資本利子稅ヲ課ス

第二條　資本利子稅ハ本法施行地ニ於テ支拂ヲ受クル左ノ資本利子ニ付之ヲ賦課ス

甲種　公債、社債、産業債券若ハ銀行預金ノ利子又ハ貸付信託ノ利益

乙種　（略）

第五條　甲種ノ資本利子ニシテ左ニ揭クルモノニハ資本利子稅ヲ課セス

一　所得稅法其ノ他ノ法律ニ依リ第二種所得稅ヲ課セラレサル者ノ支拂ヲ受クル利子

二　貯蓄債券又ハ復興債券ノ利子

四一　登錄稅法抄

明治二十九年三月法律第二十七號
（改正十六回略）昭和二年三月二十九日法律第六號

第十九條　左ニ揭クルモノニハ登錄稅ヲ課セス但シ第八號、第九號、第十一號、第十二號資本利子稅法抄　登錄稅法抄

及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル
（自一號至六號略）

七　産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、生絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付産業組合法、製絲業法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記

八　自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

九　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會カ自作農ノ創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十　北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

十一　住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記

十二　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

十三　農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記

（十四號略）

附　則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四　登錄稅法施行規則抄

（明治三十二年五月十九日勅令第二百五號（改正三回略）昭和四年第九十三號）

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第八號、第九號又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　自作農ノ創設維持事業ニ關スル國庫補助金ノ交付ヲ受ケテ行フ北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

三　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ前二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

四　第一號又ハ第二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

第五條ノ二　左ニ揭ケル住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合

及第十四號ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依ル
（自一號至六號略）
七　産業組合、産業組合聯合會、産業組合中央會、生絲共同施設組合、漁業組合、漁業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ニ付産業組合法、製絲業法、漁業法、重要輸出品工業組合法又ハ輸出組合法ニ基キテ爲ス登記
八　自作農ノ創設維持ノ爲ニスル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記
九　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會カ自作農ノ創設維持ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
十　北海道府縣市町村、産業組合又ハ住宅組合カ住宅ノ供給ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記
十一　住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合ヨリノ權利ノ取得ノ登記
十二　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ヨリ自作農創設維持ノ爲資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ其ノ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記
十三　農業倉庫業者又ハ聯合農業倉庫業者ノ農業倉庫若ハ聯合農業倉庫又ハ其ノ敷地ニ關スル權利ノ取得ノ登記
（十四號略）

附　則

本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

四二　登錄稅法施行規則抄

（明治三十二年五月十九日勅令第二百五號（改正三回略）昭和四年第九十三號）

第五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル登記ニシテ其ノ該當スルコトニ付地方長官ノ證明アルモノニハ登錄稅法第十九條第八號、第九號又ハ第十二號ノ規定ニ依リ登錄稅ヲ免除ス

一　自作農ノ創設維持事業ニ關スル國庫補助金ノ交付ヲ受ケテ行フ北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ施設ニ依ル個人ノ土地所有權ノ取得ノ登記

三　北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ前二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ノ爲ニスル抵當權ノ取得ノ登記

四　第一號又ハ第二號ニ規定スル自作農ノ創設維持事業ニ依リ資金ノ貸付ヲ受ケタル者カ貸付ノ條件ヲ具備セサルニ至リタル場合ニ於ケル北海道府縣市町村、産業組合又ハ産業組合聯合會ノ土地所有權ノ取得ノ登記

第五條ノ二　左ニ揭ケル住宅又ハ住宅用地ニ付産業組合員又ハ住宅組合員カ其ノ所屬組合

登錄稅法施行規則

ヨリノ權利ノ取得ノ登記ニハ登錄稅法第十九條
第十一號ノ規定ニ依リ登錄ヲ免除ス但シ一人ニ付各一個ニ限ル
一　住居ノ用ニ供スル家屋各階ノ坪數ノ合計カ三十五坪以下ナル住宅
二　七十坪以下ノ住宅用地

三　印紙稅法抄

明治三十二年三月法律第五十四號
（改正七回略）昭和二年三月二十九日法律第七號

第四條　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ證書ハ一通毎ニ、帳簿ハ一冊一年以內ノ附込ニ對シ左ノ印紙稅ヲ納ムヘシ
（自一至六略）
七　約束手形
八　爲替手形
（九略）
十　產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書
十一　產業組合聯合會、重要輸出品工業組合、重要輸出品工業組合聯合會又ハ輸出組合ノ發スル出資證券

（自十二至十三略）
十四　倉庫證券
（自十五至二十四略）
二十五　定款又ハ組合契約書
（自二十六至三十四略）
第五條　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
（自一至四並八略）
五　小切手
六　產業組合ノ發スル出資證券若ハ貯金通帳又ハ住宅組合ノ發スル出資證券
七　記載金高十圓未滿ノ約束手形及爲替手形
九　產業組合又ハ產業組合聯合會ノ發スル貯金證書ニシテ其ノ記載金高十圓未滿ノモノ
（自十至十五略）
十六　手形及證券ノ裏書又ハ之ニ併記シタル受取書
（十七略）
十八　手形ノ引受及保證
十九　手形又ハ證券ノ拒絕證書
二十　手形又ハ證券ノ複本及謄本

印紙稅法抄

二十一　農業倉庫證券又ハ聯合農業倉庫證券
（自二十二至二十五略）
附　則
本法ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
本法施行前作成シタル證書又ハ帳簿ノ印紙稅ニ關シテハ仍從前ノ例ニ依ル

四　印紙稅ニ關スル主稅局通牒　大正四年十一月二十九日

產業組合ニ於テ作成シ又ハ之ニ向テ發スル證書ノ印紙稅ハ左ノ通リ取扱フコト
（自一至五並七ハ昭和二年三月法律第七號ニ依リ消滅）
六　產業組合ニ於テ其組合員又ハ組合員以外ノ者ニ對シ發スル受取書ハ營業ニ關セサル受取書トシテ第五條ニ依ルコト
（參照）
印紙稅法
第五條　左ニ揭クル證書、帳簿ニ關シテハ印紙稅ヲ納ムルコトヲ要セス
（自一至十略）
十一　賣買仕切書
（十二、十三略）
十四　記載金高十圓未滿若ハ金高記載ナキ又ハ營業ニ關セサル受取書
（十五略）
十六　手形及證券ノ裏書之ニ併記シタル受取書
（自十七至二十略）

五　市制町村制施行規則抄

大正十五年六月二十四日內務省令第十九號
第六十四條　市町村ハ收入役ヲシテ其ノ保管ニ屬スル市町村歲計現金ヲ郵便官署又ハ銀行若ハ信用組合ニ預入セシムルコトヲ得
前項ノ銀行及信用組合ニ付テハ府縣知事ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス
附　則
本令中議員選擧ニ關スル規定ハ次ノ總選擧ヨリ財務ニ關スル規定ハ大正十六年度分ヨリ、其ノ他ノ規定ハ大正十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

四六　預金部普通地方資金融通規則

昭和七年十二月十六日大藏省令第三十號

第一章　總　則

第一條　預金部普通地方資金ノ融通ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本令ノ定ムル所ニ依ルモノトス

第二條　預金部普通地方資金ハ之ヲ左ノ十種トス

一　公共團體普通事業資金
二　社會事業資金
三　耕地整理事業資金
四　產業組合事業資金
五　森林組合事業資金
六　漁業組合事業資金
七　畜產組合事業資金
八　工業組合事業資金
九　輸出組合事業資金
十　商業組合事業資金

第二章　融　通　先

第三條　本資金ハ左ノ各號ノ者ニ限リ之ヲ融通スルコトヲ得

一　公共團體普通事業資金ニ在リテハ
イ　北海道地方費（以下道ト稱ス）、府縣、市町村、市町村組合及町村組合
ロ　水利組合及北海道土功組合

二　社會事業資金ニ在リテハ
イ　道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合
ロ　住宅組合
ハ　產業組合
ニ　營利ヲ目的トセサル法人

三　耕地整理事業資金ニ在リテハ
イ　耕地整理組合
ロ　耕地整理組合聯合會
ハ　耕地整理共同施行者
ニ　耕地整理ヲ施行シ又ハ耕地整理事業助成ノ目的ヲ以テ工事又ハ設備ヲ行フ道、府縣、市町村、市町村組合及町村組合

四　產業組合事業資金ニ在リテハ

イ　産業組合
ロ　産業組合聯合會

五　森林組合事業資金ニ在リテハ
イ　森林組合

六　漁業組合事業資金ニ在リテハ
イ　漁業組合
ロ　漁業組合聯合會

七　畜産組合事業資金ニ在リテハ
イ　畜産組合
ロ　畜産組合聯合會

八　工業組合事業資金ニ在リテハ
イ　工業組合
ロ　工業組合聯合會

九　輸出組合事業資金ニ在リテハ
イ　輸出組合
ロ　輸出組合聯合會

十　商業組合事業資金ニ在リテハ

イ　商業組合
ロ　商業組合聯合會

第四條　本資金ノ融通ヲ受クル者ハ左ノ各號ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　財務ノ整理良好ナルコト

二　事業ノ計畫及償還ノ見込確實ナルコト

産業組合、森林組合、漁業組合、畜産組合、工業組合、輸出組合、商業組合及其ノ聯合會ニ在リテハ前項ニ依ルノ外其ノ設立後三年ヲ經過シタルコトヲ要ス但シ地方長官ニ於テ其ノ基礎鞏固ナリト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第三章　資金ノ用途

第五條　本資金ハ左ノ各號ノ用途ニ對シ之ヲ融通スルモノトス

一　公共團體普通事業資金ニ在リテハ
イ　灌漑及排水事業費
ロ　災害豫防費
ハ　隔離病舍、結核療養所及傳染病院建設費
ニ　上水道及下水道費
ホ　墓地、汚物取扱場、火葬場及塵芥處分場費
ヘ　屠場費

預金部普通地方資金融通規則

ト　道路、河川及港灣修築竝ニ砂防ニ關スル負擔金
チ　道路、橋梁及渡船場費
リ　河川及港灣費
ヌ　開墾及埋立事業費
ル　學校及教員住宅建設費
ヲ　電氣及瓦斯事業費
ワ　軌道及自動車事業費

二　社會事業資金ニ在リテハ

イ　住宅ノ建設費
ロ　公益質屋費
ハ　公益市場費
ニ　簡易宿泊所費
ホ　託兒所費
ヘ　職業紹介所費
ト　其ノ他ノ社會事業費

三　耕地整理事業資金ニ在リテハ

イ　耕地整理ニ關スル事業費
四　産業組合事業資金、森林組合事業資金、漁業組合事業資金、畜産組合事業資金、工業組合事業資金、輸出組合事業資金及商業組合事業資金ニ在リテハ

イ　當該組合及同聯合會ノ事業費

第四章　資金ノ割當

第六條　地方公共團體、水利組合又ハ北海道土功組合本資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書（第一號樣式）ヲ地方長官ヲ經由シテ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及內務大臣ニ提出スヘシ

前項ノ地方公共團體ニシテ東京市、京都市、大阪市、橫濱市、神戸市及名古屋市（以下六大都市ト稱ス）以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ前項ニ依リ大藏大臣ニ提出スル預金部資金借入申込書ハ預金部支部ヲ經由スヘシ

第七條　資金ノ借入ヲ希望スル者道、府縣、六大都市、水利組合又ハ北海道土功組合ナル場合ニ於テ其ノ申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金部資金供給稟請書（第二號樣式）ヲ地方長官ヲ經由シ第二條第一號及第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及內務大臣ニ、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スヘシ

資金ノ借入ヲ希望スル者六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナル場合ニ於テ其ノ申込ニ對シ資金割當ノ通知ヲ受ケタルトキハ預金部資金供給稟請書（第二號樣式）

預金部普通地方資金融通規則

ヲ預金部支部ヲ經由シテ第二條第一號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及內務大臣、第三號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ提出スヘシ

前二項ノ預金部資金供給稟請書ニハ起債決議書寫、起債許可書寫及供給稟請額ノ償還年次表ヲ添附スヘシ

第八條　地方公共團體、水利組合及北海道土功組合以外ノ者本資金ノ借入ヲ爲サントスルトキハ借入ヲ要スル年度ノ前年度三月三十一日迄ニ預金部資金借入申込書（第一號樣式）ヲ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及內務大臣ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及農林大臣ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ在リテハ大藏大臣及商工大臣ニ地方長官ヲ經由シテ提出スヘシ

第九條　第六條及前條ノ期限ハ大藏大臣ニ於テ必要アリト認ムル場合ニ於テハ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第十條　本章ノ規定ニ依リ預金部支部ヲ經由シテ提出スヘキ書類ニハ預金部支部ノ出張所ノ設アル區域ニ於テハ同出張所ヲ經由スルコトヲ要ス

第五章　資金ノ融通

第一節　總則

第十一條　地方公共團體ニ對スル資金ノ融通ハ直接預金部ニ於テ之カ取扱ヲ爲スモノトス地方公共團體以外ノモノニ對シテハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ヲ經由シテ資金ノ融通ヲ爲スモノトス但シ第二條第二號ノ資金ニ在リテハ此ノ外尙道、府縣轉貸ノ方法ニ依リ融通ヲ爲スコトアルヘシ

第十二條　地方公共團體ニ對スル預金部資金ノ融通ハ當該地方債證券ノ引受又ハ貸付ノ形式ニ依ルモノトス

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行又ハ產業組合中央金庫ニ對スル預金部資金ノ融通ハ債券引受ノ形式ニ依ルモノトス但シ三年以內ノモノニ限リ貸付ノ形式ニ依ルコトアルヘシ

第十三條　前條ノ規定ニ依ル地方債證券、債券又ハ貸付金ノ償還期限ハ五年以內ノ据置期間ヲ併セ二十年以內トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以內ノ据置期間ヲ併セ三十年以內ト爲スコトアルヘシ

第十四條　日本勸業銀行、農工銀行及北海道拓殖銀行ノ預金部資金ノ貸付ハ定期償還、產業組合中央金庫ノ預金部資金貸付ハ定期償還若ハ年賦償還又ハ手形割引、日本興業銀行ノ預金部資金貸付ハ定期償還又ハ手形割引ノ方法ニ依ルモノトス

前項ノ定期償還貸付ノ償還期限ハ五年以內トシ年賦償還貸付ノ償還期限ハ五年以內ノ据置期間ヲ併セ二十年以內トス但シ資金融通ノ目的タル事業ノ種類其ノ他ノ事由ニ依リ特ニ必要アリト認ムル場合ニ於テハ五年以內ノ据置期間ヲ併セ三十年以內ト爲スコトアルヘシ

預金部普通地方資金融通規則

第十五條　前四條ノ外預金部資金ノ融通利率其ノ他ノ融通條件ニ關シテハ大藏大臣ノ時時定ムル所ニ依ルモノトス

第二節　地方公共團體ニ對スル資金ノ融通

第十六條　地方公共團體第七條ノ規定ニ依ル預金部資金交付申請書（第三號樣式）ニ償還年次表ヲ添ヘ道、府縣又ハ六大都市ニ在リテハ預金部ニ、六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ預金部支部ニ之ヲ提出スヘシ但シ資金ノ交付ヲ受クヘキ期日ハ預金部資金交付申請書發送ノ日ヨリ十日以上ノ餘日ヲ存スルコトヲ要ス

第十七條　地方公共團體日本銀行（本店、支店又ハ代理店ヲ含ム以下同シ）ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ地方債證券（第四號樣式）又ハ借用證書（第五號樣式）ヲ日本銀行當該店ニ提出スヘシ

前項ニ依リ地方公共團體カ日本銀行代理店ニ地方債證券又ハ借用證書ヲ提出スル場合ニ於テハ之カ送付書ヲ添附スヘシ

第十八條　道、府縣又ハ六大都市カ轉貸ノ爲交付ヲ受ケタル預金部資金ノ貸付ニ付テハ第二十條乃至第二十三條ノ規定ヲ準用ス

第三節　地方公共團體以外ノ者ニ對スル資金ノ融通

第十九條　地方公共團體以外ノモノニ對シ預金部資金供給ノ決定アリタルトキハ日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ハ債券ノ引受又ハ預金部資金貸付申請書（第六號樣式又ハ第七號樣式）ヲ預金部ニ提出スヘシ

日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫前項ノ申請ニ依リ日本銀行本店ヨリ現金ノ交付ヲ受ケタルトキハ之ト引換ニ債券又ハ借用證書（第五號樣式）ヲ日本銀行本店ニ提出スヘシ

第二十條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫前條ノ規定ニ依リ貸付資金ノ交付ヲ受ケタルトキハ速ニ貸付ヲ爲スヘシ

第二十一條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫預金部資金ノ貸付ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ債務者トノ間ニ締結スル貸借契約ニ借入金ノ預金部資金ナルコト竝ニ借入金使用ノ目的ヲ明示シ且左記事項ヲ定ムヘシ

一　債務者カ其ノ借入金ヲ資金供給ノ目的以外ニ使用シタルトキ又ハ借入後長期ニ亙リ資金供給ノ目的ノ爲ニ使用セサルトキハ之ヲ返還スルコト

二　預金部ハ債務者ニ就キ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵スルコトアルヘキコト

第二十二條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ニ於テ其ノ交付ヲ受ケタル預金部資金中不用トナリタルモノアルトキハ其金額ニ相當スル金額ヲ最近ノ元利金支拂期日ニ於テ償還スヘシ但シ債券發行ニ依リ資金ノ交付ヲ

受ケタル場合ニ於テハ券面額ニ充タサル端數ハ之ヲ次期ノ計算ニ繰越スコトヲ得

第二十三條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ニ於テ預金部資金ノ貸付ヲ爲シタルトキハ一口毎ニ區別シテ毎月之ヲ報告スヘシ

前項ノ報告書ハ第二條第一號及第二號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、內務大臣及地方長官ニ、第三號乃至第七號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、農林大臣及地方長官ニ、第八號乃至第十號ノ資金ニ關スルモノハ大藏大臣、商工大臣及地方長官ニ提出スヘシ

第六章　償還及利子拂

第二十四條　道、府縣、六大都市、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫其融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ日本銀行本店ニ對シ預金部資金元利金內譯書（第八號樣式）ヲ添ヘテ送金シ預金部ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書（第九號樣式）ヲ送付スヘシ

第二十五條　六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ元金ノ償還又ハ利子ノ支拂ヲ爲サントスルトキハ當該融通金ノ交付ヲ取扱ヒタル日本銀行ニ對シ預金部資金元利金內譯書（第八號樣式）ヲ添ヘテ送金シ預金部支部ニ之ニ關スル預金部資金元利金支拂計算書（第九號樣式）ヲ送付スヘシ

第二十六條　地方公共團體ニ於テ融通ヲ受ケタル預金部資金ノ繰上償還ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ變更償還年次表ヲ添ヘ預金部ノ承認ヲ受クヘシ

地方公共團體前項ノ承認ヲ受ケタルトキハ最近ノ元利金支拂期ニ於テ償還スヘシ

第七章　雜則

第二十七條　日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ハ其ノ融通ヲ受ケタル預金部資金ニ付別ニ帳簿ヲ設ケ整理スヘシ

第二十八條　地方公共團體、日本勸業銀行、農工銀行、北海道拓殖銀行、日本興業銀行又ハ產業組合中央金庫ハ每年十二月三十一日現在ヲ以テ預金部資金ノ使用狀況報告書（第十一號樣式）又ハ貸付狀況報告書（第十一號樣式）ヲ調製シ翌年二月末日迄ニ預金部ニ提出スヘシ但シ六大都市以外ノ市町村、市町村組合及町村組合ニ在リテハ該報告書各二通ヲ調製シテ翌年一月三十一日迄ニ預金部支部ヲ經由シテ之ヲ提出スヘシ

附　則

本令ハ交付ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號樣式

預金部資金借入申込書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　額　何　圓
一、資金ノ用途　何事業（何々ノ爲轉貸）
一、償還方法　年賦（定期）
一、期　限　何年据置何年何月迄ニ償還（定期償還ノ場合ハ何年何月償還）
一、資金ヲ必要トスル時期　何年何月
右ニ依リ預金部資金借用致度此段及申込候也

年　月　日

借入申込者　氏　名　㊞

大藏大臣
內務大臣
農林大臣　氏　名　宛
商工大臣

註　本申込書ハ名宛毎ニ各別ニ調製スルコト

第二號樣式

預金部資金供給稟請書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　額　何　圓
一、資金ノ用途　何事業（何々ノ爲轉貸）
一、起債許可年月日及番號　何年何月何日何第何號（起債ノ許可ナキモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ）
一、資金ノ交付ヲ受クヘキ店名　日本銀行何店
右供給相成度別紙償還年次表相添へ此段及稟請候也

年　月　日

資金供給稟請者　氏　名　㊞

大藏大臣
內務大臣　氏　名　宛
農林大臣

註　一、本稟請書ハ名宛毎ニ各別ニ調製スルコト
二、資金ノ交付ヲ受クヘキ日本銀行ノ店ハ借受人カ六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ成ルヘク其ノ金庫タル店又ハ其ノ取引アル店ヲ選定シ其ノ他ノ者ナルトキハ日本銀行ノ本店トスルコト

附屬樣式

別紙

償還年次表（定期償還ノ方法ニ依ルトキハ）
（本表ノ添付ヲ要セズ）

年月日	元金	利子	合計
何年何月何日			
何年何月何日			
〃			
〃			
〃			
〃			
合計			

第三號樣式　預金部資金交付申請書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金額　何圓
一、利率　年何分何厘
一、資金ノ交付ヲ受クベキ年月日　何年何月何日
一、資金ノ交付ヲ受クベキ店名　日本銀行何店
一、据置期限　何年何月何日
一、償還期限　何年何月何日
一、引換提供スヘキ地方債證券（借用證書）ノ記番號
一、地方債證券ノ種類及枚數　何萬圓券何枚　千圓券何枚
一、資金供給決定ノ年月日及番號　何年度何資金

右御交付相成度別紙償還年次表相添ヘ此段及申請候也
追テ資金御交付ノ上ハ預金部ニ於テ本資金ニ關シ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之候

年　月　日

資金交付申請者　氏　名　㊞

預金部長（預金部支部長）　宛

註　資金ノ交付ヲ受クヘキ日本銀行ノ店ハ借受人カ六大都市以外ノ市町村、市町村組合又ハ町村組合ナルトキハ成ルヘク其ノ金庫タル店又ハ其ノ取引アル店ヲ選定シ其ノ他ノ者ナルトキハ日本銀行ノ本店トスルコト

附屬樣式

別紙

償還年次表（定期償還ノ方法ニ依ルトキハ本表ノ添附ヲ要セズ）

年月日	元金	利子	合計
何年何月何日 何年何月何日 、、、、、、 、、、、、、	圓	圓	圓
合計			

第四號樣式

同　第　券證債（村町市縣府道）　No.

圓　何

第一、　第二、　第三、

所有者　大藏大臣

第一、此ノ（道府縣市町村）債ハ發行ノ日ヨリ昭和何年何月何日迄据置其ノ後昭和何年何月何日迄ニ之ヲ償還ス

第二、此ノ（道府縣市町村）債ノ利子ノ割合ハ一年百分ノ何トス

第三、此ノ（道府縣市町村）債ノ利子ハ何月何日及何月何日ニ於テ其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ發行又ハ償還ノ場合ニ於ケル一期ニ滿タサル端數利子ハ發行ノ際ニ於テ現金ヲ拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ニ於テハ支拂當日迄日割計算ニ依ルモノトス

第四、此ノ（道府縣市町村）債券面記載事項以外ノ取扱ハ總テ何（道府縣市町村）債募集及償還方法ノ規程ニ遵據スルモノトス

年　月　日發行

何何北海市府縣道町村知事長　氏　名㊞

註

一、證券ノ券面種類ハ百圓、五百圓、壹千圓、五千圓、壹萬圓、五萬圓トシ元金償還ノ都合ニ依リ適宜種類ヲ選擇シテ發行スルコト

二、證券ハ縱四寸四分横九寸一分（曲尺）

三、證券ハ普通活版ニ附シ別ニ色刷等ヲ爲スニ及ハサルモ活字ノ大サハ六號トスルコト

四、證券ニハ利札ヲ附セサルコト

附屬樣式

第五號樣式

第　號

印紙

消印

借用證書

一金　何　　圓也

右金額ハ何事業(轉貸)資金ニ充當ノ爲左記條件ヲ以テ預金部ヨリ本日借用仕候就而右元利金ハ借入條件ヲ遵守シ支拂可仕候也

追而本資金ニ關シ預金部ニ於テ隨時調査ヲ爲シ又ハ報告ヲ徵セラルルモ何等異議無之又本借用證書ハ預金部ノ請求アル場合ニ於テハ何時ニテモ地方債證券(何々債券)ニ引換可申候

記

一、資金ノ用途　　何事業(何々ノ爲轉貸)

一、利　　率　　年何分何厘

一、元利金支拂方法及時期　　(註參照)

一、元利金支拂ノ場所　　日本銀行何店

大藏大臣　氏　　借受人　氏　　名　㊞

名宛

註

一、(イ)元利金支拂方法及時期ノ項ニハ年賦償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「別紙償還年次表ノ通リ償還スルモノトス(但シ本資金ニ依ル貸付金返濟高ガ前期償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本資金ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ一部又ハ全部ノ返濟アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返濟額相當ノ償還ヲ爲スモノトス)借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿タサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧內ハ轉貸スヘキ資金ヲ借入レタル者ニ限リ記載スルコト

(ロ)定期償還ノ方法ニ依ルモノニ付テハ「何年何月何日元金全額ヲ償還ス(但シ本資金ニ依ル貸付金カ期限前ニ一部又ハ全部ノ返濟アリタルトキハ最近ノ利子支拂期ニ於テ之カ相當額ヲ償還スルモノトス)利子ハ毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿タサル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フモノトス」ト記載スルコト但シ括弧內ハ轉貸スヘキ資金ヲ借入レタル者ニ限リ記載スルコト

二、元利金支拂場所ノ項ノ何店ハ本資金ノ貸付ヲ取扱ヒタル日本銀行ノ店名ヲ記載スルコト

三、收入印紙ノ貼付ハ公共團體以外ノ借受人ニ限ルコト

附屬樣式

第六號樣式

債券引受申請書

一、資金年度及資金名　何年度何々資金
一、債券發行高　何　圓
一、債券ノ記號又ハ囘別　何號又ハ第何囘
一、各債券ノ金額　何萬圓及何千圓
一、債券ノ總枚數　何萬圓券何枚、何千圓券何枚(記名利札付トス)
一、利子歩合　年何分何厘
一、發行價格　額面百圓ニ付百圓
一、申込期日　何年何月何日
一、拂込及發行期日　何年何月何日
一、据置期限　何年何月何日(一時ニ償還スルモノニ付テハ本項ノ記入ヲ要セズ)
一、償還期間　何年何月何日ヨリ向フ何年以内(一時ニ償還スルモノニ付テハ本項記入ヲ要セズ)
一、償還方法　何年何月第一囘ノ償還抽籤ヲ執行シ以後毎年二囘(何月何日)抽籤ヲ爲シ毎囘元金何萬圓以上ヲ其ノ翌月ニ償還シ何年何月何日殘額全部ヲ償還ス但シ本資金ニ依ル貸付金返濟高カ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ償還シ又本債券ノ据置期間中ニ於テ本資金ニ依ル貸付金ノ全部又ハ一部ノ返濟アリタルトキハ最近ノ元利支拂期ニ於テ該返濟額相當額ノ償還ヲ爲スモノトス(一時ニ償還スルモノニ付テハ其ノ償還期日ノミヲ記入スルコト)
一、元金及利子支拂期　毎年何月何日、何月何日ノ二囘利子ハ何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ募集又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿タザル端數利子ハ募集ノ際ハ現金拂込ノ翌日ヨリ償還ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フ

右ハ預金部資金ヲ以テ御引受相成度此段申請候也

年　月　日

預金部長　氏　名宛

申請者　氏　名　㊞

附屬樣式

第七號樣式

預金部資金貸付申請書

一、資金年度及資金名　何年度何資金
一、金　額　何　圓
一、利　率　年何分何厘
一、借入期日　何年何月何日
一、償還方法　何年何月何日
、、、、、、
但シ本資金ニ依ル貸付金返濟高カ前記償還高ヲ超過シタルトキハ其ノ超過額モ同時ニ返濟スルモノトス
一、利子支拂期　毎年何月何日及何月何日ニ於テ各其ノ日迄六月間ニ屬スルモノヲ支拂フ但シ借入又ハ償還ノ際ニ於ケル一期ニ滿タザル端數利子ハ借入ノ際ニハ其ノ翌日ヨリ返濟ノ際ニハ支拂當日迄日割計算ニ依リ支拂フ

右預金部資金ヲ以テ御貸付相成度此段申請候也

年　月　日

預金部長　氏　名　宛

貸付申請者　氏　名　㊞

第八號樣式

日本銀行本店（支店又ハ代理店）宛

預金部資金元利金內譯書

借受人　氏　名　㊞

地方債證券（何々債券）發行又ハ借入年月日	回別（何々債券）又ハ發行額又ハ當初借入額	地方債證券（何々債券）現在利率	送金額	償還券面別番號枚數	摘要
			利子額		
			償還額		
計					

註

一、地方債證券（何々債券）及借入金ハ區別ヲ爲シ各發行又ハ借入年月日順ニ記入スルコト

二、摘要欄ニハ支拂期日、送金月日等ヲ記入スルコト

附屬樣式

第九號樣式

年　月　日

預金部長（預金部何支部長）氏名宛

預金部資金元利金支拂計算書

借受人　氏　名　㊞

借入資金別	地方債證券（何々債券）發行年月日	預金部引受代金拂込年月日	借入年月日	回別又ハ記號	債券發行額又當初借入額	現在額	利率	利附期間	支拂所要額 利子額	支拂所要額 償還額	支拂額	償還券面別枚數	摘要
計					円	円			円	円	円		

註

一、資金別欄ニハ借入資金ノ名稱及用途ヲ記入スルコト

二、地方債證券（何々債券）債券及借入金ハ各區別ヲ爲シ發行又ハ借入年月日順ニ記入スルコト

三、摘要欄ニハ支拂期日、送金月日、償還債券番號及其ノ他參考事項ヲ記入スルコト

第十號樣式

年　月　日

預金部長　氏　名宛

預金部資金ノ使用狀況報告

別紙ノ通及報告候也

借受人　氏　名　㊞

（其ノ一）

預金部何々資金使用狀況明細表

（何年十二月三十一日現在）

事業ノ名稱及場所	事業着手及完成年月日			事業資金支出狀況								預金部資金						備考
	着手	年	月	日	似途項目別	豫算額	支出濟額	支出年月日	年	月	日	借入額	年度別	借入年	並償還月	償還日		
	完成					円	円					円		借入	年	月	日	
														償還				
	着手							自						借入				
	完成							至						償還				
	着手							自						借入				
	完成							至						償還				
	着手							自						借入				
	完成							至						償還				
合計																		

註

一、本表ハ借受人ガ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル資金ニシテ其ノ事業ニ使用シタルモノニ付作成スルコト

二、本表ハ資金ノ種類別（公共團體普通事業資金、社會事業資金又ハ各種組合普通事業資金）ニ作成シ借入毎ニ順次記載スルコト

三、備考欄ニハ事業進捗ノ概況、豫算額中預金部資金以外ノ財源ニ依ルモノアルトキハ其ノ金額其ノ他實地調査上參考トナルヘキ事項ヲ記載スルコト

附屬樣式

（其ノ二）

預金部資金ノ借入額及使用額對照表

（何年十二月三十一日現在）

資金ノ區別			借入年月日			償還年月日			資金借入高				資金使用額		差引資金殘額		備考
資金名	年度	債券ノ記號又ハ回別	年	月	日	年	月	日	當初借入額		借入現在額		資金使用濟額		差引資金殘額		
									円		円		円		円		
合計																	

註

一、本表ハ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル金額ト其ノ使用額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト

二、備考欄ニハ資金殘額ノ將來使用見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト

三、貸付金ノ形式ニ依リ融通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記號又ハ回別欄ニ貸付金ト明記シ尚借用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト

第十一號樣式

年　月　日

預金部長　氏　名　宛

借受人　氏　名　㊞

預金部資金ノ貸付狀況報告

別紙ノ通及報告候也

（其ノ一）

預金部何々資金貸付狀況明細表

（何年十二月三十一日現在）

貸付先		貸付高				貸付金ノ使途	資金ノ年度別	貸付年月日			償還期限			貸付率利	元利金利ノ支拂日又子期		元利金延滯額	備考
名稱	所在地	當初		現在				年	月	日	年	月	日		月	日	元金利子	
		円		円													元金利子	
																	元金利子	
																	元金利子	
																	元金利子	
																	元金利子	
合計																	元金利子	

附屬樣式

註

一、本表ハ借受人ガ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル資金ニシテ他ニ貸付ケタルモノニ付作成スルコト

但シ日本勸業銀行ガ更ニ農工債券、北海道拓殖債券ヲ引受ケタル場合ハ農工銀行、北海道拓殖銀行ヨリ本表報告ヲ提出シ日本勸業銀行ハ其ノ引受債券毎ニ條件、現在額等ヲ本書式ニ準ジ報告スルコト

二、本表ハ道府縣別及資金別（公共團體普通事業資金、社會事業資金又ハ各種組合普通事業資金）ニ作成シ貸付一件毎ニ記載スルコト

三、貸付高欄ノ現在額中ニハ元金延滯額ヲ含マシムルコト

四、元利金延滯額欄ニハ貸付一件毎ニ元利支拂延滯ノ有無竝ニ其ノ金額ヲ元金ト利子トニ區分掲記スルコト

五、備考欄ニハ實地調査上參考トナルベキ事項等ヲ記載スルコト 尙日本勸業銀行ニ在リテハ直接貸ト代理貸トノ別ヲ記載スルコト

（其ノ二）

預金部資金ノ借入額及貸出額對照表

（何年十二月三十一日現在）

資金ノ區別			借入			償還			資金借入高		資金ノ貸出高		差引資金殘額	備考
資金名	年度	債券ノ記號又ハ回別	年	月	日	年	月	日	常初借入額	借入現在額	總貸出額	貸出現在額		
									円	円	円	円	円	
合計														

註

一、本表ハ預金部ヨリ直接融通ヲ受ケタル金額ト其ノ貸出額トノ比較表ニシテ資金ノ種類及借入毎ニ記載スルコト

二、備考欄ニハ資金殘額ノ將來貸出見込其ノ他參考事項ヲ記入スルコト

尙日本勸業銀行ニ在リテハ直接貸ト代理貸トノ別ヲ記載スルコト

三、農工銀行、北海道拓殖銀行ハ預金部直接引受ニ依ル資金ノ外日本勸業銀行引受ニ依ル資金ノ分ヲモ本表ニ記載シ備考欄ニ其ノ旨明記スルコト

四、貸付金ノ形式ニ依リ融通ヲ受ケタル資金ニ付テハ債券ノ記號又ハ回別欄ニ貸付金ト明記シ尙借用證書ニ番號アルモノハ其ノ番號ヲモ記入スルコト

附屬樣式

四七　簡易生命保險積立金貸付規則

大正八年八月十九日遞信省令第七十四號
改正大正九年十二月二十八日遞信省令第百二十四號

第一條　簡易生命保險特別會計法ニ依ル積立金ハ簡易生命保險積立金運用規則第二條ノ規定ニ基キ公共團體又ハ營利ヲ目的トセサル法人若ハ組合ニ對シ本規則ノ定ムル所ニ依リ貸付ヲ爲ス

第二條　積立金ノ貸付ハ年賦償還貸付、半年賦償還貸付及定期償還貸付トス

第三條　年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニ在リテハ元金ト利息トヲ併セテ之ヲ計算シ每期同一ノ金額ヲ償還セシム

貸付金ノ年賦及半年賦償還ニ付テハ五年內ノ据置期間ヲ設クルコトヲ得但シ其ノ期間內ノ利息ハ此ノ限ニ在ラス

年賦償還貸付及半年賦償還貸付期間ハ前項ノ据置期間ヲ除キ二十年內トス

第四條　定期償還貸付ニ在リテハ一回又ハ數回ニ元金ヲ償還セシム

定期償還貸付ノ貸付期間ハ五年內トス

第五條　年賦償還貸付及半年賦償還貸付ニシテ据置期間ヲ設ケタルモノニ在リテハ契約ノ定ムル所ニ依リ其ノ期間中ニ於テ貸付後一年內ヲ限リ貸付金ノ分割交付ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ定期償還貸付ニ付之ヲ準用ス

第六條　地方自治團體ニ非サル者ニ積立金ノ貸付ヲ爲ス場合ニハ其ノ借主ヲシテ擔保ヲ提供シ又ハ保證人ヲ立テシムルコトアルヘシ

第七條　積立金ヲ借入レムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル簡易生命保險積立金借入申込書正副二通ニ記名調印ノ上其ノ主タル事務所ノ所在地ヲ管轄スル遞信局ヲ經由シテ之ヲ遞信大臣ニ提出スヘシ

一　金額
二　目的
三　償還方法
四　完濟期限
五　借主ノ主タル事務所

貸付金ノ受領時期（分割交付ヲ受ケムトスルモノニ在リテハ其ノ分割金額トモ）ハ之ヲ前項ノ借入申込書ニ附記スヘシ

第八條　前條ノ借入申込書ニハ借入ノ目的タル事業ノ計畫、豫算、費用調達方法、債務償還資源及借主ノ當該年度ノ歲入歲出豫算、最近年度ノ決算ノ大要ヲ記載シタル書類竝左ノ區別ニ依ル書類各二通ヲ添附スヘシ

一　地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及最近年度事業報告書ノ謄本
二　公共組合ニ在リテハ定款又ハ規約、起債決議書及最近年度事業報告書ノ謄本

簡易生命保險積立金貸付規則

三　前各號以外ノ法人又ハ組合ニ在リテハ定款又ハ規約及最近年度事業報告書ノ謄本
貸借對照表及財産目錄
起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノハ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ許可申請中ノモノニ在リテハ許可セラレタルトキ速ニ之ヲ簡易保險局ニ送付スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

四八　米穀法施行令抄

昭和六年六月三十日勅令第百七十號
昭和七年十月三日勅令第二百九十六號改正

第十六條　米穀法第一條第二項ノ規定ニ依ル米穀ノ貸付ハ道府縣ニ於テ米穀ヲ市町村、產業組合、農會等ニ對シ農林大臣ノ適當ト認ムル條件ヲ以テ貸付又ハ賣渡ヲ爲サントスル場合ニ之ヲ行フ

參　照

(米穀法第一條第二項)政府ハ米穀ノ買換ヲ爲サントスル場合ニ於テ必要アリト認ムルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ買換ニ代ヘ買換ノ爲賣渡ヲ爲サントスル米穀ヲ道府縣ニ對シ貸付スルコトヲ得

四九　米穀法施行規則抄

昭和六年七月一日農林省令第十三號
昭和七年十月五日農林省令第二十九號改正

第二十七條ノ七　米穀現在高定期調査ハ毎年三月一日、五月一日、七月一日、八月一日、九月一日及十一月一日各午前零時現在ニ於テ內地ニ現在スル米穀ニ付テハ之ヲ行ハサルモノトス

漏クル米穀ニ付テハ之ヲ行フ但シ左ニ

一　調査時日ニ於テ保稅地域及外國貿易船ニ現在スル米穀

二　調査期日ノ屬スル年ニ於テ生產セラレタル內地米

三　內地米、朝鮮米及臺灣米ノ碎米

前項ノ調査ハ內地米、朝鮮米及臺灣米ニ在リテハ籾、玄米及白米ニ區分シ、外國米ニ在リテハ籾、玄米、白米及碎米ニ區分シテ之ヲ行フ

第二十七條ノ八　左ニ揭グル倉庫ノ管理者ハ其ノ倉庫ニ現在スル米穀ニ付前條ノ規定ニ依リ調査セラルヘキモノノ數量ニ付府縣知事ニ對シ樣式第一號ニ依リ申告ヲ爲スヘシ

一　倉庫營業者ノ倉庫

二　運送營業者、運送取扱營業者又ハ銀行ノ倉庫

三　農業倉庫又ハ聯合農業倉庫

四　前號ノ外農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ之ニ準スルモノニシテ府縣知事ノ指定シタルモノノ倉庫

米穀法施行規則抄

五〇　米穀買入手續抄

大正十年五月農商務省告示第百二十三號

賣却申込ヲ爲サントスル者ハ樣式第一號ニ準シ銘柄、等級、數量ヲ記載シタル書面ニ一石ニ付金貳圓ノ申込保證金（現金又ハ無記名國債）及印鑑二通ヲ添ヘ買入事務所ニ之ヲ差出スヘシ尙公共團體等ニシテ賣却ニ付議決ヲ要スルモノニ在リテハ之ヲ證スル書類ヲ添付スヘシ

前項ノ保證金ハ公共團體、產業組合及農業倉庫業者ニ在リテハ之ヲ要セス

第一項ノ保證金ハ契約締結ノ際契約保證金ニ之ヲ充當ス

五一　家畜市場法施行規則抄

明治四十三年十二月農商務省令第二六號
改正　大正元年第二十三號

第十一條　家畜市場法第八條ノ規定ニ依ル常設家畜市場ノ區域內ニ於テ開設スルコトヲ得ル市場左ノ如シ

一　品評會、共進會、博覽會又ハ競馬會ノ開設スル臨時家畜市場

二　產牛馬組合法又ハ產業組合法ニ依リ設置シタル組合ノ家畜市場

三　家畜市場法施行前ニ開設ノ許可若ハ認可ヲ得タル家畜市場

（參照）

家畜市場法第八條　常設家畜市場ニ付主務大臣ノ認可ヲ得テ地方長官ノ指定シタル區域內ニ於テハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外其ノ市場ノ取扱フ家畜ニ付市場ヲ開設スルコトヲ得ス

五二　水產講習所種苗拂下規則抄

大正三年三月
農商務省令第六號

第三條　種苗ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ左ノ一ニ該當スルモノニ限ル

一　地方水產試驗場、水產講習所、學校、水產組合、漁業組合、產業組合

二　道、府縣、郡、市町村其ノ他ノ公共團體

三　一年以上養殖事業ニ從事シ相當ノ成績ヲ擧ケタル者

前項ニ該當セサルモノト雖水產講習所長ニ於テ適當ト認メタル者ニ對シテハ拂下ヲ爲スコトアルヘシ

五三　種雛種卵拂下規則抄

昭和二年十二月二十八日農林省令第二十七號
昭和三年七月農林省令第一〇號改正

第一條　種鷄場ニ於テ拂下クヘキ種雛及種卵ノ種類、價格及一出願人ニ對シ拂下クヘキ數量ハ農林大臣之ヲ定ム

前項ノ種類、價格及數量ハ之ヲ告示ス

第二條　種雛及種卵ノ拂下ヲ受クルコトヲ得ル者ハ道府縣、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ種鷄場長ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ限ル

第三條　種雛又ハ種卵ノ拂下ヲ受ケムトスル者ハ前年十二月三十一日迄ニ種類及數量ヲ記載シタル拂下願書ヲ種鷄場長ニ差出スヘシ

五四　產卵能力檢定規則抄

農林省令第九號昭和三年七月十三日
農林大臣　山本悌二郎

第一條　道府縣、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ地方長官ノ適當ト認ムル者ハ本則ニ依リ其ノ所有シ又ハ管理スル鷄ノ產卵能力ノ檢定ヲ種鷄場長ニ依賴スルコトヲ得

第二條　檢定ヲ爲スヘキ鷄ノ種類及羽數ハ農林大臣之ヲ告示ス

五五　農山漁村共同作業場奬勵規則

昭和七年十月三日
農林省令第二十八號

第一條　農林大臣ハ農山漁村共同作業場奬勵ノ爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ道府縣ノ左ニ揭クル補助金ニ對シ道府縣ニ之ヲ交付ス但シ其ノ補助金ニ對シ別ニ國庫ヨリ奬勵金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　町村、農會、產業組合、農事實行組合其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體カ農山漁村經濟ノ更生ヲ圖ル目的ヲ以テ農業者、林業者又ハ漁業者ノ共同作業ニ供用スル建物ノ新設又ハ增設ニ要スル費用ニ對シ交付スル補助金

二　前號ノ建物ニ附屬スル工作物又ハ器具、機械ノ新設又ハ增設ニ要スル費用ニ對シ交付スル補助金

第三條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ揭クル書類ヲ添付シ每年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　事業計畫書
二　經費豫算書
三　補助ニ關スル規程

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スル事アルヘシ

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ重要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ事業成績書及經費決算書ヲ翌年六月卅日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第六條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ奬勵金ノ全部ヲ當該年度內ニ支出スルコト能ハサルトキハ之ヲ事業ト共ニ當該年度後ニ繰越シ支出スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰越ヲ爲シタルトキハ翌年度四月十五日迄ニ農林大臣ニ之ヲ報告スヘシ

第七條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ奬勵金ノ全部又ハ一部ノ還附ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附　則

本令ハ交付ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第三條中二月末日迄トアルハ昭和七年度ニ限リ十一月三十日迄トス

三五　小麥增殖奬勵規則抄

昭和七年七月二十七日農林省令第十四號
改正　昭和七年第三十七號

第一條　農林大臣ハ小麥ノ增殖ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付シ又ハ賞金ヲ授與ス

第二條　奬勵金ハ左ニ揭クル道府縣、道府縣農會又ハ販賣組合聯合會又ハ販賣組合聯合會ノ費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ別ニ國庫ヨリ奬勵金、補助金又ハ助成金ノ交付ヲ受クヘキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

（自一至八略）

九　小麥ノ販賣統制ニ關スル事業ノ爲要スル販賣組合聯合會ノ費用（特別ノ事由アル場合ニ於テハ道府縣農會ノ費用）又ハ其ノ事業ノ爲要スル郡農會若ハ市農會ノ費用ニ對シ交付スル道府縣農會ノ助成金

（十、十一略）

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シ每年二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　事業計畫書

二　收支豫算書

小麥增殖奬勵規則抄

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第七條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度六月三十日迄ニ收支決算書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第二條第一號、第五號、第六號及第八號乃至第十一號ノ費用ニ對スル奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年六月三十日迄ニ、同條第二號乃至第四號及第七號ノ費用ニ對スル奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ハ翌年度十二月十五日迄ニ事業成績書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第八條　農林大臣必要アリト認ムルトキハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ奬勵金交付ノ日ヨリ五年間其ノ事業ニ關スル報告ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　本則ノ規定ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十一條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ既ニ交付シタル奬勵金ノ全部又ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定ニ違反シタルトキ

二　奬勵金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ昭和七年度ニ限リ八月三十一日迄トス

五七　米穀貯藏奬勵規則

昭和七年十一月二十八日
農林省令第三十五號

第一條　農林大臣ハ米穀ノ出廻數量ヲ調節スル爲特ニ米穀ノ貯藏ヲ奬勵スル必要アリト認ムルトキハ本則ニ依リ豫算ノ範圍内ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ產業組合、農事實行組合其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル者カ米穀ノ貯藏ヲナス場合之ニ對シ道府縣ノ交付スル助成金ニ對シ之ヲ交付ス

第三條　奬勵金ノ額ハ道府縣ノ交付スル助成金ノ額ノ範圍内トス

第四條　奬勵金ノ交付ヲ受ケントスル道府縣ハ申請書ニ左ニ揭クル書類ヲ添附シ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一、事業計畫書　二、收支豫算書　三、助成金交付ニ關スル規程又ハ條件ヲ記載シタル書類

前項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル道府縣前條第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ニ變

米穀貯藏奬勵規則

要ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル道府縣奬勵金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ請求書ニ精算書及助成金交付ニ關スル調書ヲ添附シ農林大臣ニ提出スヘシ

第七條　奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣ハ事業成績書ヲ事業終了後遲滯ナク農林大臣ニ提出スヘシ

第八條　奬勵金交付ノ指令ヲ受ケタル道府縣又ハ奬勵金ノ交付ヲ受ケタル道府縣左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ奬勵金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル奬勵金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一、本則ノ規定ニ違反シタルトキ　二、奬勵金交付條件ニ違反シタルトキ　三、事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

籾又ハ玄米貯藏要項

一　貯藏場所

イ　農業倉庫又ハ營業倉庫

ロ　役場、農會、水利組合、產業組合、耕地整理組合、畜產組合等ノ事務所構內、倉庫、物置、納屋、作業場等ニシテ籾又ハ玄米ノ貯藏竝監視ニ適當ナル場所

ハ　資產、信用確實ナル個人ノ倉庫、土藏、邸內、農舍等ニシテ籾又ハ玄米ノ貯藏竝監視ニ適當ナル場所

二　貯藏ノ設備

籾又ハ玄米ノ貯藏保管ニ適スル農業倉庫又ハ營業倉庫以外ノ場所ニ保管スル場合ハ貯藏ノ完全ヲ期スル爲左ノ如キ設備ヲ適當ニ施設スルコト

イ　通風竝防溫、防濕設備

ロ　雨漏竝鼠害、蟲害防除設備

ハ　火災、盜難豫防設備

三　監督

本資金ノ融通ヲ受ケタル者ハ農業倉庫證券又ハ倉荷證券若ハ入庫票等ヲ擔保又ハ見返トシテ資金借入先ニ提出シタル場合ヲ除クノ外特ニ左ノ監督ヲ受クルノ義務アルモノトス官廳、市町村又ハ農會及產業組合中央金庫又ハ產業組合ヨリ籾又ハ玄米貯藏ニ關スル指揮竝監視ヲ受ケ報告書ノ提出其ノ他必要ナル指示ニ從フコト

五八　肥料配給改善助成規則

昭和五年八月一日農林省令第四號

肥料配給改善助成規則

第一條　農林大臣ハ肥料ノ配給改善ヲ圖ル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ助成金ヲ交付ス

第二條　助成金ハ全國ヲ區域トスル購買組合聯合會(以下全國購買組合聯合會ト稱ス)道府縣ヲ區域トスル購買組合聯合會(以下道府縣購買組合聯合會ト稱ス)購買組合、郡農會、市農會、町村農會其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ左ニ揭クル費用ニ對シ之ヲ交付ス

一　全國購買組合聯合會ノ役員又ハ職員ニシテ專ラ肥料配給ノ業務ヲ擔當スルモノノ設置ニ要スル費用

二　全國購買組合聯合會ノ肥料配給所又ハ其ノ附屬設備ノ新設、增設、改設又ハ買入ニ要スル費用

三　道府縣購買組合聯合會ノ職員ニシテ專ラ肥料配給ノ業務ヲ擔當スルモノノ設置ニ要スル費用

四　購買組合、郡農會、市農會、町村農會其ノ他農林大臣ノ適當ト認ムル團體ノ肥料配合ニ必要ナル器具機械ノ設置ニ要スル費用

第三條　助成金ノ額ハ前條ノ費用ノ二分ノ一以內トス但シ前條第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ額ハ一箇所分千圓ヲ超エサルモノトス

第四條　助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ二月末日迄ニ農林大臣ニ之ヲ提出スヘシ

一　事業計畫書

二　第二條ノ費用ノ豫算書

第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケントスル者ハ前項ノ書類ノ外設備ノ要領書ヲ添附スヘシ

前二項ノ書類ノ外農林大臣ハ必要ト認ムル書類ノ提出ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者前條第一項各號又ハ同條第二項ノ書類ニ記載シタル事項ニ重大ナル變更ヲ加ヘントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　第二條第一號又ハ第三號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ費用ノ精算書ヲ翌年度四月三十日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ

第七條　第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者助成金ノ交付ヲ請求セントスルトキハ第二條第二號ノ設備ニ在リテハ工事ノ全部若ハ一部ノ終了後又ハ物件買入終了後、第二條第四號ノ設備ニ在リテハ設置完成後費用ノ精算書ヲ添附シ請求書ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第八條　第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ第四條第一項第一號ノ事業計畫書ニ記載シタル目的及用途ニ從ヒ設備ヲ使用スルコトヲ要ス

特別ノ事由ニ因リ前項ノ目的又ハ用途ヲ變更セントスルトキハ農林大臣ノ承認ヲ受クヘシ

肥料配給改善助成規則

シ設備ニ重大ナル變更ヲ加ヘ又ハ設備ヲ廢棄シ若ハ讓渡セントスルトキ亦同シ

第九條　第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ設備滅失シ又ハ使用スルコト能ハサルニ至リタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

第十條　助成金ノ交付ヲ受ケタル全國購買組合聯合會又ハ道府縣購買組合聯合會ハ毎月ノ肥料配給ニ關スル事業ノ狀況ヲ翌月十五日迄ニ農林大臣ニ報告スヘシ

第十一條　助成金ノ交付ヲ受ケタル者ハ事業年度經過後遲滯ナク財產目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分書（產業組合及產業組合聯合會以外ノ團體ニ在リテハ收支決算書及事業報告書）ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

第十二條　農林大臣又ハ地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニテモ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類帳簿又ハ事業施行若ハ財產ノ狀況ヲ檢查シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十三條　第二條第二號又ハ第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケ設置シ又ハ買入レタル設備ノ承繼人ハ第八條、第九條、第十一條、前條及第十六條ノ規定ノ適用ニ付テハ之ヲ助成金ノ交付ヲ受ケタル者ト看做ス

第十四條　第八條、第九條、第十一條及第十二條ノ規定ニ依ル義務ノ存續期間ハ第二條第二號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ助成金交付ノ日ヨリ十年間、第二條第四號ノ費用ニ對スル助成金ノ交付ヲ受ケタル者ニ在リテハ助成金交付ノ日ヨリ

三年間トス

第十五條　全國購買組合聯合會ヨリ提出スヘキ書類ヲ除クノ外本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

第十六條　助成金交付ノ指令ヲ受ケタル者又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ農林大臣ハ助成金交付ノ指令ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ全部若ハ一部ノ還付ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分ニ違反シタルトキ

二　助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

三　事業施行ノ方法不適當ト認メタルトキ

四　支出額カ豫算額ニ比シ著シク減少シタルトキ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第四條中二月末日迄トアルハ昭和五年度ニ限リ九月三十日迄トス

五九　自作農創設維持補助規則抄

大正十五年五月
農林省令第十號

第一條　農林大臣ハ自作田畑ノ創設又ハ維持ヲ行フ爲左ニ揭クル資金ヲ借入レ其ノ貸付ヲ

行フ道府縣ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ補助金ヲ交付ス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ市町村、產業組合及之ニ準スヘキ者ニ對シ之ヲ交付スルコトアルヘシ

一　簡易生命保險積立金

二　償還方法貸付利率其ノ他貸付條件カ前號ノ資金ニ類似スル資金ニシテ農林大臣ノ適當ト認ムルモノ

第二條　補助金ノ交付ヲ受ケタル者ハ前條ノ資金ノ貸付ヲ受ケ左ノ事項ヲ行フ者ノ負擔ヲ輕減スル爲之ヲ使用スルコトヲ要ス

一　自作田畑ト爲スヘキ土地ノ購入

二　農林大臣ニ於テ適當ト認ムル自作田畑ノ維持（自作田畑トシテ土地ヲ購入シタルニ因リ生シタル其ノ土地ノ抵當債務ノ借替）

第三條　補助金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ二月末日迄ニ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

一　事業計畫書

二　事業ニ關スル收支豫算書

三　貸付ニ關スル規程

四　樣式第一號ニ依ル借入調書

五　地方自治團體ニ在リテハ起債決議書及組合規約アルモノハ其ノ規約ノ謄本、產業組合及產業組合聯合會ニ在リテハ定款、借入額最高限度決議書ノ謄本、最近年度事業報告書、財產目錄及貸借對照表

起債ニ關シ監督官廳ノ許可ヲ要スルモノニ在リテハ許可書ノ謄本ヲ添附スヘシ但シ許可申請中ノモノニ在リテハ許可セラレタルトキ之ヲ農林大臣ニ提出スヘシ

六〇　副業奬勵規則抄

大正十四年五月九日
農林省令第十一號

第一條　農林大臣ハ農村ニ於ケル副業ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ道府縣及農林大臣ノ指定スル法人又ハ組合ニ對シ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ニ付道府縣、法人又ハ組合ノ支出スル費用及補助金ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ事項ニ付別ニ國庫ヨリ補助金又ハ之ニ準スルモノノ交付ヲ受クル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　道府縣ニ於ケル副業奬勵ノ事務ニ從事スル專任者ノ設置

二　副業ニ關スル傳習會、講習會、展覽會、共進會、競技會等ノ開設

三　副業ヲ指導スヘキ技術員ノ養成

四　副業ニ關スル調查及試驗

五　副業ニ關スル參考品竝副業用種苗及器具機械ノ購入及配付

六　副業ニ關スル組合ノ設立
八　前各號ノ外農林大臣ニ於テ必要ト認ムル事項

六二　林業共同施設奬勵規則抄

大正十五年五月
農林省令第十二號

第一條　農林大臣ハ林業共同施設ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ左ニ揭ク府縣ノ補助金及費用ニ對シ府縣ニ之ヲ交付ス

一　森林組合ノ林產物搬出ノ用ニ供スル林道、索道及貯木場ノ新設、增設又ハ改設ニ要スル費用ニ對スル補助金

二　產業組合、市町村若ハ之ニ準スヘキ者又ハ森林組合ノ木炭生產者ノ爲ニ施設スル木炭倉庫及木炭檢查ニ付同業組合又ハ其ノ聯合會ノ木炭生產者ノ爲ニ施設スル木炭倉庫ノ新築增築又ハ改築ニ要スル費用ニ對スル補助金

三　前二號ノ事業ノ爲ニ要スル府縣職員ノ旅費

第三條　奬勵金ハ左ノ標準ニ依リ之ヲ交付ス但シ第一號ノ場合ニ在リテハ奬勵金ノ二分ノ一以上ヲ府縣ニ於テ負擔スル場合ニ限ル

一　前條第一號及第二號ノ場合ニ在リテハ其ノ經費ノ六分ノ一以內

二　前條第三號ノ場合ニ在リテハ其ノ經費ノ二分ノ一以內

六三　漁業共同施設奬勵規則抄

大正十四年六月二十六日
農林省令第二十一號

第一條　農林大臣ハ漁業ニ關スル共同ノ施設ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ每年度豫算ノ範圍內ニ於テ左ニ揭クル設備ニ對シ奬勵金ヲ交付ス

一　船揚及船溜設備
二　水產物ノ販賣設備
三　水產物ノ製造、加工及處理設備
四　貯藏設備
五　漁船及漁具設備
六　水產物ノ運搬設備
七　水產物ノ養殖設備
八　漁船救難設備

第二條　奬勵金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ニ限ル（自一至三略）

四　產業組合又ハ產業組合聯合會

漁業共同施設奬勵規則抄

（以下略）

六三　畜産共同施設奨勵規則抄

昭和七年七月八日農林省令第七號

第一條　農林大臣ハ牛乳、肉類、鷄卵及飼料ニ關スル共同施設ヲ奨勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奨勵金ヲ交付ス

第二條　奨勵金ハ左ニ揭グル場合ニ於テ其ノ設備ヲ爲ス者ニ對シ其ノ費用ノ二分ノ一以內ヲ交付ス設備ノ改造又ハ擴張ニ付農林大臣特別ノ必要アリト認ムルトキ亦同ジ

一　畜産組合、畜産組合聯合會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ牛乳ノ搾取、檢查、淨化、冷却、殺菌若ハ加工又ハ牛乳若ハ乳製品ノ貯藏、包裝若ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

二　畜産組合、畜産組合聯合會、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ肉類ノ解體、選別、冷却、若ハ加工又ハ肉類若ハ肉製造品ノ貯藏、包裝若ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

三　農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ三十人以上ヲ以テ組織スル養鷄ニ關スル組合ニ於テ鷄卵ノ檢查、選別、貯藏、包裝又ハ輸送ニ關スル設備ヲ爲ス場合

四　畜産組合、畜産組合聯合會、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ニ於テ飼料ノ生產、調製、貯藏其ノ他飼料ノ利用ニ關スル設備ヲ爲ス場合

（自第三條至第九條略）

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

乳肉卵共同處理奨勵規則ハ之ヲ廢止ス

乳肉卵共同處理奨勵規則ニ依リ奨勵金ノ交付ヲ受ケタル者ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

本令施行前乳肉卵共同處理奨勵規則ニ依リ爲シタル申請ハ本則ニ依リ之ヲ爲シタルモノト看做ス

六四　養鷄奨勵規則抄

昭和二年三月三十日農林省令第五號

第一條　農林大臣ハ鷄ノ改良增殖ヲ圖リ鷄卵ノ增產ヲ奨勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奨勵金ヲ交付ス

第二條　奨勵金ハ道府縣、農會、產業組合、產業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人若ハ組合ノ左ニ揭グル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以內ヲ交付ス

一　養鶏ニ關スル專任技術員ノ設置ニ要スル費用
二　養鶏ニ關スル共進會、競技會、講習會、講話會其ノ他養鶏智識ノ普及向上ニ關スル施設ニ要スル費用
三　鶏ノ飼養、孵卵、育雛、産卵能力ノ檢定又ハ飼養ノ貯藏若ハ調製ニ要スル建物、工作物又ハ器具機械ノ設備ニ要スル費用

六五　有畜農業奬勵規則抄

昭和六年七月六日農林省令第十六號

第一條　農林大臣ハ有畜農業ノ普及發達ヲ圖ル爲本則ニ依リ毎年豫算ノ範圍内ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ左ニ揭グル場合ニ於テ其ノ施設ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス但シ其ノ費用ニ對シ別ニ國庫ヨリ奬勵金、補助金、又ハ助成金ノ交付ヲ受クベキ場合ハ此ノ限ニ在ラズ

（自一至二略）

三　有畜農業ニ關スル共同ノ施設事業ヲ行フ組合又ハ産業組合ガ其ノ事業ニ關シ左ニ揭グル施設ヲ爲ス場合

一　家畜又ハ家禽ノ購入

二　家畜又ハ家禽ノ飼養管理ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置
三　飼料作物又ハ芻草ノ改良增産ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置
四　飼料ノ調製又ハ貯藏ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置
五　畜産物ノ處理加工ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置
六　畜力又ハ厩肥ノ利用ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ設置

六六　畜産物販賣斡旋及受託販賣奬勵規則抄

大正十五年五月七日農林省令第八號
昭和六年八月十四日農林省令第二十二號改正

第一條　農林大臣ハ畜産物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍内ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ畜産組合聯合會若ハ之ニ準スヘキ畜産組合、産業組合聯合會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル組合畜産物ノ販賣斡旋及受託販賣ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ於テ左ニ揭クル費用ニ對シ其ノ二分ノ一以内ヲ交付ス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ此ノ割合ヲ超エテ之ヲ交付スルコトアルヘシ

一　事業ニ從事スル專任職員ノ俸給及旅費

二　事業ニ要スル事務費

前項ノ規定ハ道府縣農會又ハ農林大臣ノ適當ト認ムル法人畜産物ノ販賣斡旋ニ關スル事業ヲ行フ場合ニ之ヲ準用ス

六七　製絲業共同施設奬勵規則抄

昭和七年九月二十四日
農林省令第二十四號

第一條　農林大臣ハ製絲業法第一條ニ規定スル製絲業者ノ共同施設ヲ奬勵スル爲本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ奬勵金ヲ交付ス

第二條　奬勵金ハ前條ノ製絲業者ガ共同施設ヲ爲ス目的ヲ以テ組織スル法人又ハ組合ノ施設スル器械生絲ノ揚返、束裝、荷造、檢査又ハ販賣ニ必要ナル建物、工作物又ハ器具機械ノ新設、增設、改設又ハ買入ニ要スル費用ニ對シ之ヲ交付ス

六八　共同繭倉庫及共同乾繭裝置助成規則

大正十四年四月二十三日農林省令第五號
改正同十五年九月一日農林省令第二十一號

第一條　農林大臣ハ乾繭取引ノ發達竝繭ノ乾燥及保管ノ改善ヲ圖ル爲メ共同繭倉庫及共同乾繭裝置ニ對シ本則ニ依リ毎年度豫算ノ範圍內ニ於テ助成金ヲ交付ス

第二條　助成金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ナルコトヲ要ス但シ共同繭倉庫ニ對スル助成金ノ交付ヲ受クルコトヲ得ヘキ者ハ第一號ニ該當スルモノニシテ農業倉庫業法第六條ノ認可ヲ受ケタル者及第二號ニ該當スル者ニ限ル

一　產業組合、產業組合聯合會、農會、蠶業ノ發達ヲ目的トスル公益法人又ハ市町村若ハ之ニ準スヘキモノ

二　株式會社但シ其ノ株式及議決權ノ十分ノ八以上カ養蠶業者ニ屬スルモノニ限ル

三　主トシテ養蠶業者ヲ以テ組織スル同業組合若ハ道府縣ノ規程ニ依リ認メラレタル養蠶組合又ハ其ノ聯合會

第三條　共同繭倉庫ニ對スル助成金ハ農林大臣ノ適當ト認ムル規模及構造ヲ具備スル倉庫ノ新築、增築又ハ改築ニ要スル費用ニ對シ其ノ十分ノ四以內ヲ交付ス

第四條　共同乾繭裝置ニ對スル助成金ハ農林大臣ノ適當ト認ムル規模及構造ヲ具備スル乾繭設備及之ニ附屬スル繭ノ取扱場ノ新設、增設若ハ改造又ハ特別ノ理由アル場合ニ於テハ其ノ買入ニ要スル費用ニ對シ其ノ十分ノ四以內ヲ交付ス

第五條　助成金ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ申請書ニ左ノ書類ヲ添附シ三月三十一日迄ニ農林大臣ニ提出スヘシ但シ申請者カ助成金交付ノ許可ヲ受ケタルコトアル者ナル場合ニ於テ前ニ提出シタル添附書類ノ記載事項ニ變更ナキモノアルトキハ其ノ旨ヲ明ニシ當該書類ノ添附ヲ省略スルコトヲ得

共同繭倉庫及共同乾繭裝置助成規則

一　第一號樣式ニ依ル事業計畫書
二　第二號樣式ニ依ル設備要領書
三　第三號樣式ニ依ル費用豫算書
四　業務規程
五　市町村及之ニ準スヘキ者以外ノモノニ在リテハ其ノ定款、寄附行爲、會則又ハ規約
六　産業組合ニ在リテハ職業別組合員ノ數及其ノ出資口數ヲ記載シタル書類
七　産業組合聯合會ニ在リテハ所屬組合又ハ所屬聯合會ノ定款、繭ノ取扱ニ關スル業務規程其ノ他業務施行ニ關スル規程及其ノ産業組合聯合會ニ對スル出資口數ヲ記載シタル書類
八　株式會社ニ在リテハ職業別株主及其ノ所有株式ノ數ヲ記載シタル書類
九　養蠶組合ニ在リテハ其ノ組合員、其ノ聯合會ニ在リテハ組織組合及各組織組合ノ組合員ノ數ヲ記載シタル書類

申請者カ養蠶組合又ハ其ノ聯合會ナルトキハ代表者ヲ定メ其ノ代表者ヨリ助成金交付ノ申請ヲ爲スヘシ其ノ場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

助成金交付ノ申請ヲ爲シタル者第一項各號ノ書類ニ記載シタル事項ヲ變更シタルトキハ其ノ旨農林大臣ニ屆出ツヘシ

第六條　業務規程ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ繭倉庫ノ事業ヲ爲ササル者ノ業務規程ニアリテハ第二號乃至第十一號、乾繭ノ事業ヲ爲ササル者ノ業務規程ニアリテハ第十三號及第十四號ニ揭クル事項ハ之ヲ記載スルコトヲ要セス

一　事業ノ種類
二　第十五條第二項ノ規定ニ依ル保管繭一荷口ノ最少數量
三　第十五條第三項ノ規定ニ依ル保管ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨及保管スヘキ物品ノ名稱
四　第十五條第三項ノ規定ニ依リ保管スヘキ物品ニ付保管ノ順位ヲ定メタルトキハ其ノ順位竝同條第一項ノ規定ニ依ル保管物ノ保管上必要アルトキ及第二十條ノ規定ニ依リ保管ニ制限ヲ受ケタルトキハ何時ニテモ第十五條第三項ノ規定ニ依ル保管物ノ出庫ヲナサシメ得ヘキ旨及其ノ出庫ノ順位
五　保管ノ方法及保管上特殊ノ作業ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ作業
六　混合保管ヲ爲スモノニアリテハ其ノ範圍及受寄物返還ニ關スル規定
七　保管料ニ關スル規定
八　保管期間ニ關スル規定
九　證券發行ニ關スル規定
十　保險ニ關スル規定

共同繭倉庫及共同乾繭裝置助成規則

十一　避クヘカラサル事由ニ依ル減量ノ負擔ニ關スル規定
十二　入庫料、出庫料、乾燥料其ノ他ノ手數料ニ關スル規定
十三　第十六條第二項ノ規定ニ依リ乾燥ヲ爲スモノニ在リテハ其ノ旨
十四　乾燥ノ順位及乾燥ノ方法
十五　受寄物又ハ受託物ノ檢査又ハ格付ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
十六　受寄物又ハ受託物ノ調製、改裝若ハ荷造又ハ其ノ運送若ハ販賣ノ仲立若ハ取次ヲ爲シ又ハ受寄物若ハ其倉庫證券ヲ擔保トシテ貸付ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定
十七　共同寄託者又ハ共同委託者ノ委託ニ依リ受託物若ハ寄託物又ハ其ノ賣却代金ニ對シ各寄託者又ハ委託者ノ有スル權利ノ割當ヲ爲スモノニ在リテハ之ニ關スル規定

第七條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者工事ニ著手シ又ハ工事ヲ完成シ若ハ物件ノ買入ヲ了シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

第八條　助成金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル者工事又ハ買入物件ニ付農林大臣ノ指定シタル者檢査ヲ受クヘシ

第九條　助成金ノ交付ノ許可ヲ受ケタル者工事ノ仕樣ニ重要ナル變更ヲ加ヘ又ハ買入物件ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

農林大臣ハ前項ノ認可ヲ爲スニ際シ助成金ノ額ヲ變更スルコトアルヘシ

第十條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者助成金ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ工事完成又ハ物件買入終了後費用精算書ヲ添ヘ請求書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

前ニ於テ助成金ノ交付ヲ爲スコトアルヘシ

前項ノ規定ニ拘ラス工事完成又ハ物件買入終了

第十一條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者其ノ事業又ハ物件ヲ第二條ニ規定スル資格ヲ具備スル者ニ讓渡セムトスルトキハ第四號樣式ニ依ル願書ヲ差出シ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者解散シタルトキハ許可ハ其ノ效力ヲ失フ但シ合併後存續シ又ハ合併ニ因リ設立シタル法人カ第二條ニ規定スル資格ヲ具備スル場合ニ於テ事業ノ承繼ニ付農林大臣ノ認可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス解散シタル法人ト同一ノ事業ヲ行フ法人カ第二條ニ規定スル資格ヲ具備スル場合ニ於テ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル物件ノ讓受ニ付農林大臣ノ認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

前二項ノ認可アリタルトキハ讓受人又ハ承繼人ヲ以テ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第十二條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ事業ヲ休止シ、廢止シ又ハ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル物件ヲ第二條ニ規定スル資格ヲ具備セサル者ニ讓渡スルコトヲ得ス

共同蔵倉庫及共同乾蔵裝置助成規則

第十三條　左ノ場合ニ於テハ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

一　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル物件ノ現狀ニ重大ナル變更ヲ加ヘムトスルトキ

二　株式會社又ハ養蠶組合若ハ其ノ聯合會其ノ定款又ハ規約ヲ變更セムトスルトキ

三　業務規程（農業倉庫業者ノ業務規程ヲ除ク）ヲ變更セムトスルトキ

第十四條　左ノ場合ニ於テハ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ農林大臣ニ屆出ツヘシ

一　業務規程ノ外業務施行ニ關スル規程ヲ設ケ又ハ之ヲ變更シタルトキ

二　市町村及之ニ準スヘキモノヲ除クノ外其ノ役員ニ變更アリタルトキ

三　第十七條ノ主任技術者ヲ任免シタルトキ

四　休止シタル事業ヲ開始シタルトキ

第十五條　共同繭倉庫ニ對スル助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ養蠶業者ノ共同ノ寄託ニ因リ其ノ生產シタル繭ノ保管ヲ爲ス爲其ノ倉庫ヲ使用スルコトヲ要ス

共同繭倉庫ニ於テハ品質及乾燥齊一ナル繭ノ大量ヲ一荷口トシテ保管スルコトヲ要ス

共同繭倉庫ニ對スル助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ前二項ノ規定ニ依ル保管ニ支障ナキ限リ前項數量ノ制限ニ拘ラス又ハ共同ノ寄託ヲ爲ス養蠶業者ニ非サル者ノ寄託ニ依リ繭ノ保管ヲ爲シ若ハ保管繭損傷ヲ及ホス虞ナキ他ノ物品ノ保管ヲ爲ス爲其ノ倉庫ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル保管物ノ保管期間ハ其ノ地方ニ於ケル次ノ春蠶繭ノ收穫開始時期ヲ超エテ之ヲ定メ又ハ更新スルコトヲ得ス

第十六條　共同乾繭裝置ニ對スル助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ養蠶業者ノ共同ノ委託ニ因リ其ノ生產シタル繭ノ乾燥ヲ爲ス爲其ノ乾繭設備ヲ使用スルコトヲ要ス

共同乾繭裝置ニ對スル助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ前項ノ規定ニ依ル乾燥ニ支障ナキ限リ前項ノ規定ニ拘ラス繭其ノ他ノ物品ノ乾燥ヲ爲ス爲其ノ乾繭設備ヲ使用スルコトヲ得

第十七條　共同乾繭裝置ニ對スル助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ農林大臣ノ定ムル資格ヲ有スル主任技術者ヲ設置スルコトヲ要ス

第十八條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル株式會社ハ利益金ノ處分ニ付農林大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ハ事業月報、每期收支計算書及每期事業報告書ヲ農林大臣ニ差出スヘシ

第二十條　農林大臣必要ト認ムルトキハ助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シ何時ニテモ業務規程ノ變更ヲ命シ第十五條第三項又ハ第十六條第二項ノ規定ニ依ル保管又ハ乾燥ニ付制限ヲ爲シ其ノ事業ニ關スル報告ヲ爲サシメ書類、帳簿又ハ業務執行若ハ財產ノ狀況ヲ檢查シ其ノ他監督上必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

共同繭倉庫及共同乾繭裝置助成規則

第二十一條　助成金交付ノ許可ヲ受ケタル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ農林大臣ハ助成金交付ノ許可ヲ取消シ又ハ既ニ交付シタル助成金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

一　本則ノ規定又ハ本則ノ規定ニ依ル處分若ハ助成金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二　第二條ニ規定スル資格ヲ失フニ至リタルトキ

三　詐欺ノ手段ヲ以テ助成金交付ノ許可ヲ受ケ又ハ助成金ノ交付ヲ受ケタルトキ

第二十二條　本則ニ依リ農林大臣ニ提出スヘキ書類ハ地方長官ヲ經由スヘシ

地方長官第五條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ之ニ意見書ヲ添エ農林大臣ニ進達スヘシ

第二十三條　左ノ場合ニ於テハ本則ニ依ル助成金ハ之ヲ交付セス

一　農業倉庫奬勵規則ニ依リ補助金ノ交付ヲ受クル道府縣ノ補助金ノ交付ヲ受クルトキ

二　農業倉庫奬勵規則ニ依リ補助金ノ交付ヲ受クルトキ

第二十四條　農林大臣必要ト認ムルトキハ第三條乃至第五條ノ規定ニ拘ラス共同蔵倉庫及共同乾繭裝置ニ對シ助成金ヲ交付スルコトアルヘシ

附　則

本則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第五條中一月末日迄トアルハ大正十四年度ニ限リ八月末日迄トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

究　金融組合令

大正三年五月二十二日制令第二十二號
大正三年九月一日ヨリ施行（大正三、八、一五、府令一二〇）
改正大正七年六月二十七日制令第十三號
大正七年十月一日ヨリ施行（大正七、九、一三、府令八七）
改正昭和四年四月二十七日制令第四號

第一章　總　則

第一條　金融組合ハ組合員ノ金融ヲ緩和シ其ノ經濟ノ發達ヲ企圖スル社團法人トス

第二條　金融組合ノ組合員ハ組合ノ區域内ニ於テ住所ヲ有スル者ニ限ル

第三條　金融組合ノ住所ハ主タル事務所ノ所在地ニ在ルモノトス

第四條　金融組合ノ名稱中ニハ金融組合ナル文字ヲ用ウルコトヲ要ス

金融組合ニ非スシテ其ノ名稱中ニ金融組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウルコトヲ得ス

第五條　金融組合ハ左ノ業務ヲ行フモノトス

一　組合員ニ對シ其ノ經濟ノ發達ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト

二　組合員ノ爲ニ預金ヲ受入レ又ハ期限ヲ定メテ一定金額ノ給付ヲ爲スヲ約シ定期ニ若ハ一定ノ期間内ニ於テ數回ニ金錢ヲ受入ルヽコト

府又ハ朝鮮總督ノ指定シタル市街地カ組合ノ區域ニ屬スル金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ前項第一號ノ資金ノ爲メ手形ノ割引ヲ爲スコトヲ得

金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ組合員ノ爲ニ其ノ貨物ヲ倉庫ニ保管シ又ハ之ニ對シ倉
荷證券ヲ發行スルコトヲ得
前項ノ倉荷證券ニハ商法中倉荷證券ニ關スル規定ヲ準用ス

第六條　金融組合ハ組合員ニ非サル者ノ爲ニ貯蓄銀行令第一條第一項若クハ第五條第一號
ノ業務ヲ爲シ又ハ同令第五條第五號ノ業務ヲ爲スコトヲ得

第七條　金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ他ノ金融組合若ハ銀行ノ業務ヲ代理シ又ハ銀行
ノ業務ノ媒介ヲ爲スコトヲ得

第八條　金融組合ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ借入金ヲ爲スコトヲ得

第九條　業務上ノ餘裕金ハ金融組合聯合會若ハ朝鮮總督ノ指定シタル銀行ニ預入レ郵便貯
金ト爲シ又ハ國債證券地方債證券其ノ他朝鮮總督ノ認可シタル有價證券ヲ買入ルルノ外
之ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條　金融組合ハ業務ノ爲必要ナル物件ヲ取得シ又ハ債務辨濟ノ爲物件ヲ引受クル場合
ヲ除クノ外動產又ハ不動產ヲ所有スルコトヲ得ス

第十一條　金融組合ハ本令ニ記載セサル業務ヲ行フコトヲ得ス但シ朝鮮總督ノ命令アリタ
ルトキハ供託又ハ地方金融ノ調節ニ關スル業務ヲ行フコトヲ得

朝鮮總督ハ必要ト認ムルトキハ金融組合ノ業務ヲ制限スルコトヲ得

第十一條ノ二　金融組合ニハ本令ニ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外商法及商法施行法中商

人ニ關スル規定ヲ準用ス

第十二條　本令ニ定ムルモノノ外金融組合ノ業務ノ取締ニ關シ必要ナル事項ハ朝鮮總督之
ヲ定ム

第二章　設　立

第十三條　金融組合ヲ設立セムトスルトキハ定款ヲ作リ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

第十四條　定款ニハ本令ニ規定アルモノノ外左ノ事項ヲ記載シ設立者之ニ署名捺印スヘシ

一　目　的
二　名　稱
三　區　域
四　事務所ノ所在地
五　出資一口ノ金額及其ノ拂込ノ方法
六　第一回拂込ノ金額
七　準備金積立ノ方法
八　剩餘金ノ處分ニ關スル規定
九　組合員タル資格ニ關スル規定
十　組合員持分ノ計算方法ニ關スル規定
十一　組合員ノ加入及脫退ニ關スル規定

十二　存立時期又ハ解散ノ事由ヲ定メタルトキハ其ノ時期又ハ事由

十三　業務ノ執行ニ關スル規定

第十五條　金融組合ノ設立ヲ許可スルヲ爲必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ既設組合ノ區域及事務所所在地ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十六條　金融組合ハ組合員ノ數ヲ限定スルコトヲ得

第十七條　出資一口ノ金額ハ十圓以上五十圓以下トシ均一ニ之ヲ定ムヘシ

第十八條　金融組合カ其ノ設立ノ許可ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク各組合員ヲシテ第一回ノ拂込ヲ爲サシムヘシ

第十九條　前條ノ拂込アリタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ

一　第十四條第一號乃至第三號、第五號及第十二號ニ揭ケタル事項

二　事務所

三　出資ノ總口數及拂込ミタル出資ノ總額

四　設立許可ノ年月日

五　組合長、理事副理事及監事ノ氏名、住所

金融組合ノ設立ハ其ノ主タル事務所所在地ニ於テ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十條　前條第一項ニ揭ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ但シ前條第一項第三號ノ事項ニ付テハ每事業年度末日ノ現在ニ依リ年度終了後一月內ニ登記ヲ爲スコトヲ得

前項ノ登記前ニ在リテハ登記事項ノ變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

主タル事務所以外ノ事務所ノ所在地ニ於テ登記スヘキ事項ヲ登記セサリシトキハ前項ノ規定ハ其ノ事務所ニ於テ爲シタル行爲ニ付テノミ之ヲ適用ス

第二十一條　行政區劃又ハ土地ノ名稱ニ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル其ノ名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス

前項ノ變更アリタルトキハ金融組合ハ遲滯ナク之ヲ登記所ニ通知スヘシ

前項ノ通知アリタルトキハ登記所ハ登記簿ノ記載ヲ變更スヘシ

第一項ノ規定ハ組合ノ區域及事務所所在地ニ關スル定款ノ規定ニ之ヲ準用ス

第二十二條　民法第四十五條第三項第四十七條及第四十八條ノ規定ハ金融組合ニ之ヲ準用ス但シ期間ニ付一週間トアルハ二週間トス

民法第四十五條第三項　法人設立ノ後新ニ事務所ヲ設ケタルトキハ一週間內ニ登記ヲ爲スコトヲ要ス

民法第四十七條　第四十五條第一項及前條ノ規定ニ依リ登記スヘキ事項ニシテ官廳ノ許可ヲ要スルモノハ其許可書ノ到達シタル時ヨリ登記ノ期間ヲ起算ス

同第四十八條　法人カ其事務所ヲ移轉シタルトキハ舊所在地ニ於テハ一週間內ニ移轉ノ登記ヲ爲シ新所在地ニ於テハ同期間內ニ第四十六條第一項ニ定メタル登記ヲ爲スコトヲ要ス

同一ノ登記所ノ管轄區域内ニ於テ事務所ヲ移轉シタルトキハ其ノ移轉ノミノ登記ヲ爲スコトヲ要ス

同第四十五條第一項　法人ハ其設立ノ日ヨリ二週間内ニ各事務所ノ所在地ニ於テ登記ヲ爲スコトヲ要ス

同第四十六條　登記スヘキ事項左ノ如シ

一　目的
二　名稱
三　事務所
四　設立許可ノ年月日
五　存立時期ヲ定メタルトキハ其時期
六　資産ノ總額
七　出資ノ方法ヲ定メタルトキハ其方法
八　理事ノ氏名、住所

前項ニ掲ケタル事項中ニ變更ヲ生シタルトキハ一週間内ニ其登記ヲ爲スコトヲ要ス

登記前ニ在リテハ其變更ヲ以テ他人ニ對抗スルコトヲ得ス

第三章　組合員ノ權利義務

第二十三條　組合員ハ出資一口以上ヲ有スヘシ

組合員ノ有スヘキ出資口數ハ百口ヲ超ユルコトヲ得ス

第二十四條　組合員ノ責任ハ其ノ出資額ヲ限度トス

第二十五條　組合員ハ拂込ムヘキ出資ニ付相殺ヲ以テ組合ニ對抗スルコトヲ得ス

第二十六條　組合員ハ組合ノ承諾アルニ非サレハ其ノ持分ヲ讓渡スルコトヲ得ス

組合員ニ非サル者ニシテ持分ヲ讓受ケムトスルトキハ第五十七條第一項ノ例ニ依ルヘシ

組合員ノ持分ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第二十七條　組合員ハ持分ヲ共有スルコトヲ得ス

第二十八條　持分ノ讓受人ハ其ノ持分ニ付讓渡人ノ權利義務ヲ承繼ス

第二十八條ノ二　死亡ニ因リ脫退シタル組合員ノ相續人ハ第五十七條第一項ノ例ニ依リ被相續人ノ持分ヲ承繼スルコトヲ得

前條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ持分ヲ承認シタル相續人ニ付之ヲ準用ス

第二十九條　組合員ハ總組合員五分ノ一以上ノ同意ヲ得總會ノ目的及其ノ招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ組合長ニ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ組合長ハ二週間内ニ總會ヲ招集スヘシ

第三十條　組合員總會ノ招集手續又ハ其ノ決議ノ方法カ法令又ハ定款ニ違反スト認ムルトキハ決議ノ日ヨリ一月内ニ其ノ決議ノ取消ヲ道知事ニ請求スルコトヲ得

第四章　管　理

第三十一條　金融組合ニ組合長一人、理事一人、監事二人以上及評議員五人以上ヲ置ク
但シ必要アル場合ニ於テハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ副理事一人又ハ數人ヲ置クコトヲ得
組合長、監事及評議員ハ總會ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任シ理事及副理事ハ朝鮮總督之ヲ任免ス
組合長ノ選任ハ道知事ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス
組合設立當時ノ組合長及監事ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ
第三十二條　監事ハ組合長、理事、副理事、其ノ他組合ノ職員ト相兼ヌルコトヲ得ス
第三十三條　組合長ノ任期ハ三年トス但シ定款ヲ以テ任期中ノ最終ノ決算期ニ關スル定時總會ノ終結ニ至ル迄其ノ任期ヲ伸長スルコトヲ得
監事及評議員ノ任期ハ二年トス但シ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得
第三十四條　組合長及監事ノ選任ハ總組合員ノ半數以上出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
第三十五條　組合長ハ理事ト共同シテ金融組合ヲ代表ス但シ組合ノ常務ニ付テハ理事單獨ニ之ヲ代表スルコトヲ得
組合長又ハ理事ニ對シテ爲シタル意思表示ハ組合ニ對シテ其ノ效力ヲ生ス
組合長ハ定款ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外總會及評議員會ノ議長トナル組合長事故アルトキハ理事之ヲ代理シ缺員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ

理事ハ總會及評議員會ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得
副理事ハ組合長及理事ヲ輔佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ理事ノ職務ヲ代理ス
第三十五條ノ二　副理事ノ代理權ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
第三十六條　組合長及理事ハ定款ノ定ムル所ニ依リ金融組合ノ業務ヲ執行ス
第三十七條　監事ハ金融組合ノ財産及業務執行ノ狀況ヲ監査シ組合ノ財産ノ狀況又ハ業務ノ執行ニ付不整ノ廉アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ道知事ニ具申スヘシ
第三十七條ノ二　金融組合カ組合長、理事又ハ副理事ト契約ヲ爲ス場合ニ於テハ監事組合ヲ代表ス組合ト組合長、理事又ハ副理事トノ間ニ於ケル訴訟ニ付亦同シ
第三十七條ノ三　組合長及理事故アルトキ又ハ缺員ノ場合ニ於テハ總會ノ招集ハ監事之ヲ行フ組合長及理事カ第二十九條第一項ノ規定ニ依ル請求アリタル日ヨリ二週間内ニ正當ノ事由ナクシテ總會招集ノ手續ヲ爲サヽルトキハ監事ハ其ノ總會ヲ招集スヘシ
第三十八條　評議員ハ評議員會ヲ組織ス
評議員會ハ組合長之ヲ招集ス
評議員會ハ本令、本令ニ基キテ發スル命令又ハ定款ノ定ムル所ニ依ル評議員ハ組合ノ業務ニ關シ組合長ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十九條　定時總會ハ毎年一回定款ニ定メタル時期ニ於テ組合長之ヲ招集ス

第四十條　臨時總會ハ必要アルトキ組合長之ヲ招集ス

第四十一條　總會ノ招集ハ少クモ十日前ニ其ノ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ各組合員ニ通知ヲ發スルコトヲ要ス

第四十二條　總會ニ於テハ豫メ通知ヲ爲シタル事項ニ付テノミ決議ヲ爲スモノトス

第四十三條　總會ノ決議ハ本令又ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外出席シタル組合員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲ス

第四十四條　組合員ノ議決權ハ平等トス

第四十五條　組合員ハ代理人ヲ以テ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ之ヲ出席ト看做ス

代理人ハ組合員又ハ同居ノ戸主若クハ家族ナルコトヲ要ス

代理人ハ代理權ヲ證スル書面ヲ組合ニ差出スヘシ

第四十五條ノ二　金融組合ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ總會ニ代ルヘキ總代會ヲ設クルコトヲ得總會ニ關スル規定ハ前條ノ規定ヲ除クノ外前項ノ總代會ニ之ヲ準用ス但シ總代會ニ於テハ解散及合併ノ決議ヲ爲スコトヲ得ス

第四十五條ノ三　金融組合ト或ル組合員、評議員又ハ總代トノ關係ニ付決議ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ組合員、評議員又ハ總代ハ議決權ヲ有セス

第四十六條　組合長及理事ハ定時總會ノ會日ヨリ一週間前ニ財産目錄、貸借對照表、事業報告書及剩餘金處分案ヲ監事ニ提出シ且之ヲ主タル事務所ニ備フヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十七條　組合長及理事ハ前條第一項ニ揭ケタル書類及監事ノ意見書ヲ定時總會ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

組合長及理事ハ前項ノ承認ヲ得タルトキハ二週間內ニ其ノ書類ヲ道知事ニ提出シ且貸借對照表ヲ公告スヘシ

第四十八條　定款ハ總會ノ決議ヲ經朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十四條ノ規定ハ前項ノ決議ニ之ヲ準用ス

第四十九條　金融組合ハ定款ヲ各事務所ニ備ヘ置キ且組合員名簿ヲ主タル事務所ニ備ヘ置クヘシ

組合員及組合ノ債權者ハ前項ニ揭ケタル書類ノ閱覽ヲ求ムルコトヲ得

第四十九條ノ二　金融組合カ其ノ組合員ニ對シテ爲ス通知又ハ催告ハ組合員名簿ニ記載シタル組合員ノ住所又ハ其ノ者カ組合ニ通知シタル住所ニ宛ツルヲ以テ足ル前項ノ通知又ハ催告ハ通常其ノ到達スヘカリシ時ニ到達シタルモノト看做ス

第五十條　組合員名簿ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

金融組合令

一　各組合員ノ氏名、住所
二　各組合員ノ出資口數
三　出資各口ニ付拂込ミタル金額及其ノ拂込ノ年月日
四　出資各口ノ取得ノ年月日

第五十條ノ二　金融組合カ出資一口ノ金額ノ減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ其ノ決議ノ日ヨリ二週間内ニ財産目錄及貸借對照表ヲ作ルヘシ

組合ハ前項ノ期間内ニ其ノ債權者ニ對シ異議アルトキハ一定ノ期間内ニ之ヲ述フヘキ旨ヲ定款ノ定ムル方法ニ從ヒテ公告シ且知レタル債權者ニ各別ニ之ヲ催告スヘシ但シ其ノ期間ハ二月ヲ下ルコトヲ得ス

第五十條ノ三　債權者カ前條第二項ノ期間内ニ出資ノ減少ニ對シ異議ヲ述ヘサリシトキハ之ヲ承認シタルモノト看做ス債權者カ異議ヲ述ヘタルトキハ組合ハ之ニ辨濟ヲ爲シ又ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ出資ヲ減少スルコトヲ得ス

第五十一條　金融組合ノ事業年度ハ一年トス

第五十二條　金融組合ハ損失ヲ塡補シタル後ニ非サレハ剩餘金ノ處分ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條　金融組合ハ定款ヲ以テ定メタル準備金ノ額ニ達スル迄毎事業年度ノ剩餘金ノ四分ノ一以上ヲ積立ツヘシ

剩餘金ハ拂込出資額ニ應シ年七分以下ノ割合ヲ以テ配當ヲ爲スコトヲ得但シ組合員カ其ノ出資ノ拂込ヲ終ル迄ハ之ニ配當スヘキ剩餘金ハ其ノ拂込ニ充ツルコトヲ要ス

第五十三條ノ二　前條第一項ノ準備金ハ左ノ場合ヲ除ク外之ヲ使用スルコトヲ得ス

一　損失ノ補塡ニ充ツルトキ
二　其ノ金融組合ノ區域カ他ノ金融組合ノ區域ト爲リタル場合ニ於テ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ其ノ財産ノ一部ヲ他ノ金融組合ニ讓渡スルトキ

第五十三條ノ三　金融組合ハ第六條ノ規程ニ依リ受入レタル金額ノ三分ノ一以上ノ金額ヲ左ノ方法ニ依リ管理スヘシ

一　金融組合聯合會若クハ朝鮮殖產銀行ヘノ預ケ金又ハ郵便貯金
二　國債證券又ハ地方債證券ノ金融組合聯合會又ハ朝鮮殖產銀行ヘノ保護預ケ

前項ノ受入金額ハ毎年三月及九月ノ各末日現在ニ依リ之ヲ定ム

第六條ノ規定ニ依ル預金者及給付金ノ債權者ハ其ノ預金及給付金ニ關シテハ第一項ノ規定ニ依リテ管理シタル預ケ金、國債證券及地方債證券ニ付他ノ債權者ニ先立チ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第五十四條　金融組合ハ組合員ノ持分ヲ取得スルコトヲ得ス

第五十五條　組合長理事又ハ副理事ハ定款又ハ總會ノ決議ニ依リテ禁止セラレサルトキニ限リ或ル種類又ハ特定ノ事項ニ付他人ヲシテ代理セシムルコトヲ得

第五十六條　金融組合ハ組合長、理事副理事又ハ前條ノ代理人カ其ノ職務ヲ行フニ付他人

金融組合令

ニ加ヘタル損害ヲ賠償スルノ責ニ任ス

第五章　加入及脱退

第五十七條　組合員ノ加入ハ評議員會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

新ニ組合員ト爲リタル者ハ定款ノ定ムル所ニ依リ直ニ第一回ノ出資拂込ヲ爲スヘシ

第五十八條　組合員ハ事業年度ノ終ニ於テ脱退ヲ爲スコトヲ得但シ三月前ニ其ノ豫告ヲ爲スコトヲ要ス

第五十九條　組合員ハ左ノ事由ニ因リ脱退ス

一　組合員タル資格ノ喪失

二　死亡

三　破産

四　禁治産

五　除名

第六十條　除名ノ事由ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

除名ハ評議員會ノ決議ニ依ル但シ除名シタル組合員ニ其ノ旨ヲ通知スルニ非サレハ之ヲ以テ其ノ組合員ニ對抗スルコトヲ得ス

第六十一條　脱退シタル組合員ハ定款ノ定ムル所ニ依リ其ノ持分ノ拂戻ヲ請求スル事ヲ得

但シ第五十三條第一項ノ準備金ニ對スル持分ニ付テハ此ノ限リニアラス

前項ニ規定スル拂戻ノ請求權ハ二年間之ヲ行ハサルニ因リテ消滅ス

第六十二條　持分ノ計算ヲ爲スニ當リ組合ノ財産ヲ以テ其ノ債務ヲ完濟スルニ足ラサルトキハ脱退シタル組合員ハ出資額ヲ限度トシ其ノ負擔ニ歸スヘキ金額ヲ拂込ムヘシ

第六十三條　脱退シタル組合員カ組合ニ對スル債務ヲ完濟スル迄ハ組合ハ其ノ持分ノ拂戻ヲ停止スルコトヲ得

第六章　監督

第六十四條　金融組合ハ朝鮮總督及道知事之ヲ監督ス

第六十五條　監督官廳ハ何時ニテモ金融組合ヲシテ其ノ業務及財産ノ狀況ヲ報告セシメ又ハ之ヲ檢査スルコトヲ得

第六十六條　監督官廳ハ金融組合ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ組合ニ對シ財産ノ供託ヲ命シ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第六十七條　金融組合カ定款、本令、本令ニ基キテ發スル命令若ハ處分ニ違反シタルトキ公益ヲ害スル虞アルトキ又ハ組合ノ事業ノ繼續困難ナルトキハ監督官廳ハ總會若クハ評議員會ノ決議ヲ取消シ、組合長、監事若クハ評議員ノ改選ヲ命シ又ハ組合ノ事業ノ停止ヲ命スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ朝鮮總督ハ組合ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第七章　解散

金融組合令

第六十八條　金融組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス

一　定款ニ定メタル存立時期ノ滿了又ハ事由ノ發生

二　總會ノ決議

三　合　併

四　組合員ノ缺亡

五　破　産

六　前條第二項ノ命令

第六十九條　第三十四條ノ規定ハ解散及合併ノ決議ニ之ヲ準用ス

前項ノ決議ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第七十條　金融組合第六十八條第一號、第二號又ハ第四號ノ事由ニ因リ解散シタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ解散ノ登記ニ之ヲ準用ス

第七十一條　第五十條ノ二及第五十條ノ三ノ規定ハ金融組合ノ合併ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十二條　削　除

第七十三條　金融組合カ合併ヲ爲シタルトキハ二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ合併後存續スル組合ニ在リテハ變更ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ消滅シタル組合ニ在リテハ解散ノ登記ヲ爲シ、合併ニ因リテ設立シタル組合ニ在リテハ第十九條第一項ノ登記ヲ爲ス

第七十四條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

第七十五條　金融組合カ其ノ債務ヲ完濟スル能ハサルニ至リタルトキハ裁判所ハ組合長及理事若ハ債權者ノ請求ニ因リ又ハ職權ヲ以テ破產ノ宣告ヲ爲ス

前項ノ場合ニ於テ組合長及理事ハ直ニ破產宣告ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第七十六條　解散シタル金融組合債務ヲ完濟シ殘餘ノ財產アルトキハ定款ノ定ムル所ニ依リ之ヲ處分スルモノトス

第八章　清　算

第七十七條　金融組合解散シタルトキハ合併又ハ破產ノ場合ヲ除クノ外本章ノ規定ニ依リ清算ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條　金融組合ノ清算ハ朝鮮總督ノ監督ニ屬ス

朝鮮總督ハ清算事務及財產ノ狀況ヲ檢查シ財產ノ供託ヲ命シ其ノ他監督ニ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第七十九條　清算人ハ朝鮮總督之ヲ任免ス

第八十條　清算人ハ就職後二週間內ニ各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ氏名、住所ノ登記ヲ爲スヘシ

前項ノ登記事項ニ變更アリタルトキハ清算人ハ二週間内ニ主タル事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十條第二項及第三項ノ規定ハ前二項ノ清算人ニ關スル登記ニ之ヲ準用ス

第八十一條　清算人ハ就職後遲滯ナク組合財産ノ狀況ヲ調査シ財産目錄及貸借對照表ヲ作リ總會ヲ招集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第八十二條　清算人ハ組合ノ債務ヲ辨濟ニ必要ナル金額ヲ供託スルニ非サレハ組合ノ財産ヲ分配スルコトヲ得ス

第八十三條　清算事務カ終リタルトキハ清算人ハ遲滯ナク決算報告書ヲ作リ總會ヲ招集シ之ニ提出シテ其ノ承認ヲ求ムヘシ

第八十四條　清算カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滯ナク各事務所ノ所在地ニ於テ其ノ登記ヲ爲スヘシ

清算人ハ清算ノ顚末ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第八十五條　第四十三條乃至第四十五條及民法第七十三條第七十八條乃至第八十一條ノ規定ハ金融組合ノ清算ニ之ヲ準用ス

民法第七十三條　解散シタル法人ハ清算ノ目的ノ範圍内ニ於テハ其清算ノ結了ニ至ルマテ尚ホ存續スルモノト看做ス

同第七十八條　清算人ノ職務左ノ如シ

一　現務ノ結了

二　債權ノ取立及債務ノ辨濟

三　殘餘財産ノ引渡

清算人ハ前項ノ職務ヲ行フ爲メニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

同第七十九條　清算人ハ其就職ノ日ヨリ二箇月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ一定ノ期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス但其期間ハ二箇月ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ公告ニハ債權者カ期間内ニ申出ヲ爲ササルトキハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥スルコトヲ得ス

清算人ハ知レタル債權者ニハ各別ニ其申出ヲ催告スルコトヲ要ス

同第八十條　前條ノ期間後ニ申出テタル債權者ハ法人ノ債務完濟ノ後未タ歸屬權利者ニ引渡ササル財産ニ對シテノミ請求ヲ爲スコトヲ得

同第八十一條　清算中ニ法人ノ財産カ其債務ヲ完濟スルニ不足ナルコト分明ナルニ至リタルトキハ清算人ハ直ニ破産宣告ノ請求ヲ爲シテ其旨ヲ公告スルコトヲ要ス

清算人ハ破産管財人ニ其事務ヲ引渡シタルトキハ其任ヲ終リタルモノトス

本條ノ場合ニ於テ既ニ債權者ニ支拂ヒ又ハ歸屬權利者ニ引渡シタルモノアルトキハ破産管財人ハ之ヲ取戻スコトヲ得

金融組合令

第九章　登　記

第八十六條　金融組合ノ登記ニ付テハ其ノ事務所所在地ヲ管轄スル地方法院又ハ其ノ支廳若ハ出張所ヲ以テ管轄登記所トス

第八十七條　登記所ニ金融組合登記簿ヲ備フ

第八十八條　第十九條第一項ノ登記ノ申請書ニハ定款ヲ添附スヘシ

第八十九條　事務所ノ移轉其他登記事項變更ノ登記ノ申請書ニハ移轉其ノ他變更ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第八十九條ノ二　出資一口ノ金額減少ノ登記ノ申請書ニハ其ノ事實ヲ證スル書面ノ外第五十條ノ二第二項ノ規定ニ依リ催告ヲ爲シタルコト若シ異議ヲ述ヘタル債權者アルトキハ之ニ對シ辨濟ヲ爲シ又ハ擔保ヲ供シタルコトヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第九十條　組合解散ノ登記ノ申請書ニハ解散ノ事由ヲ記載シ且總會ノ決議又ハ合併ニ因リテ解散シタルトキハ總會ノ決議錄ヲ添附スヘシ

前條ノ規定ハ合併ニ因ル解散ノ登記ノ申請ニ之ヲ準用ス

第九十一條　金融組合カ朝鮮總督ノ命令ニ因リテ解散シタルトキハ登記所ハ其ノ嘱託ニ因リテ登記ヲ爲スヘシ

第九十二條　金融組合ニ關シ登記シタル事項ハ裁判所遲滯ナク之ヲ公告スヘシ

第九十三條　非訟事件手續法第百四十一條乃至第百四十三條、第百四十七條乃至第百四十九條、第百五十條ノ二乃至第百五十一條ノ六、第百五十四條乃至第百五十七條及第百七十五條乃至第百七十八條ノ規定ハ金融組合ノ登記ニ之ヲ準用ス但シ司法大臣トアルハ朝鮮總督、地方裁判所長トアルハ地方法院長トス

非訟事件手續法第百四十一條　各登記所ニ各商業登記簿ノ見出帳ヲ備フ

同第百四十二條　登記所ハ何人ニモ登記簿ノ閲覽ヲ許シ又ハ手數料ヲ納付スルトキハ之ニ其謄本若ハ抄本ヲ交付スヘシ

登記所ハ登記上利害ノ關係ヲ疏明シテ申請ヲ爲シタル者ニハ其關係アル部分ニ限リ登記簿ノ附屬書類ノ閲覽ヲ許スヘシ

郵便料ヲ納付シテ登記簿ノ謄本又ハ抄本ヲ請フトキハ登記所ハ之ヲ送付スヘシ

同第百四十三條　登記所ハ申請ニ因リ登記事項ニ變更ナキコト又ハ或事項ノ登記ナキコトノ證明ヲ爲スヘシ

同第百四十七條　登記スヘキ事項ノ登記、其變更又ハ消滅ノ登記ハ本法ニ別段ノ定アル場合ヲ除ク外當事者ノ申請アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

同第百四十八條　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其更正ヲ申請スルコトヲ得

同第百四十八條ノ二　當事者ハ登記ヲ受ケタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ管轄登記所ニ其抹消ヲ申請スルコト

金融組合令

ヲ得

同第百四十九條　登記ノ申請ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス

申請書ニハ左ノ事項ヲ記載シ申請人又ハ其代理人之ニ署名、捺印スヘシ

一　申請人ノ氏名、住所、會社カ申請人ナルトキハ其商號及ヒ本店又ハ支店

二　代理人ニ依リテ申請ヲ爲ストキハ其氏名、住所

三　登記ノ目的及事由

四　年月日

五　登記所ノ表示

同第百五十條ノ二　官廳ノ許可ヲ要スル事項ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ官廳ノ許可書又ハ其認證アル謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百五十一條　登記所ハ登記ノ申請カ商法又ハ本章ノ規定ニ適セサルトキハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ此決定ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得

前項ノ決定ハ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ之ヲ申請人ニ送達スルコトヲ要ス

同第百五十一條ノ二　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記カ商法又ハ本法ノ規定ニ依リテ許スヘカラサルモノナルコトヲ發見シタルトキハ登記ヲ爲シタルモノニ對シ一箇月ヲ超エサル期間ヲ定メ其期間內ニ異議ノ申立ナキトキハ登記ヲ抹消スヘキ旨ヲ通知スヘ

シ

登記ヲ爲シタル者ノ住所又ハ居所カ知レサルトキハ前項ノ通知ニ代ヘ登記事項ノ公告ト同一ノ方法ヲ以テ公告スヘシ

登記所ハ右ノ外相當ト認ムル新聞紙ニ同一ノ公告ヲ揭載セシムルコトヲ得

同第百五十一條ノ三　異議ノ申立アリタルトキハ登記所ハ理由ヲ附シタル決定ヲ以テ其裁判ヲ爲スヘシ

前項ノ裁判ニ對シテハ卽時抗告ヲ爲スコトヲ得抗告ハ執行停止ノ効力ヲ有ス

同第百五十一條ノ四　異議ノ申立ナキトキ又ハ異議ヲ却下スル裁判カ確定シタルトキハ登記所ハ職權ヲ以テ登記ヲ抹消スヘシ

同第百五十一條ノ六　登記所ハ登記ヲ爲シタル後其登記ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ發見シタルトキハ遲滯ナク登記ヲ爲シタルモノニ其旨ヲ通知スヘシ但其錯誤又ハ遺漏カ登記所ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ登記所ハ遲滯ナク地方裁判所ノ許可ヲ得テ登記ノ更正ヲ爲スヘシ

同第百五十二條　破產裁判所カ商業登記ヲ爲シタルモノニ對シ破產ヲ宣告シタルトキハ其營業所々在地ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス破產手續ノ停止、破產宣告ノ取消、破產手續ノ終結又ハ確定シタル協諧契約ノ認可アリタルトキ亦同シ

支拂猶豫カ無效ト爲リタル場合ニ於テハ之ヲ認可シタル裁判所、協諧契約認可ヲ受ケ

金融組合令

タル破産者カ有罪破産ノ宣告ヲ受ケ又ハ其協諧契約カ取消サレタル場合ニ於テハ受訴裁判所ハ前項ノ登記所ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

同第百五十三條　登記所カ前條ノ通知ヲ受ケタルトキハ職權ヲ以テ破産者ノ商業登記ニ其通知ヲ受ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス但其公告ヲ爲スコトヲ要セス

同第百五十四條　商業登記簿ノ全部又ハ一部カ滅失シタル場合ニ於テハ司法大臣ハ一定ノ期間ヲ定メテ登記ノ回復ニ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

同第百五十五條　司法大臣ハ數個ノ登記所ノ管轄ニ屬スヘキ商業登記ノ事務ヲ其一登記所ニ委任スルコトヲ得

同第百五十六條　登記簿ノ調製其他登記ニ關スル施行細則ハ司法大臣之ヲ定ム

同第百五十七條　不動產登記法第十條、第十三條、第十八條、第二十條、第二十二條、第二十四條及第五十九條ノ規定ハ商業登記ニ之ヲ準用ス

不動產登記法第十條　登記所ニ於テ其事務ヲ停止セサルコトヲ得サル事故ノ生シタルトキハ司法大臣ハ期間ヲ定メテ其停止ヲ命スルコトヲ得

同第十三條　登記官吏カ其職務ノ執行ニ付申請人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ登記官吏ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

同第十八條　登記簿ニハ地方裁判所長其枚數ヲ表紙ノ裏面ニ記載シ職氏名ヲ署シ職印ヲ押捺シ且每葉ノ綴目ニ職印ヲ以テ契印ヲ爲スコトヲ要ス

同第二十條　登記簿、見出帳、共同人名簿及圖面ハ永久ニ之ヲ保存スルコトヲ要ス

申請書其他ノ附屬書類ハ申請書受付ノ日ヨリ十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス

同第二十二條　登記簿及其附屬書類ハ事變ヲ避クル爲ニスル場合ヲ除ク外登記所外ニ持出スコトヲ得ス但第二十條第二項ニ揭ケタル書類ニ付テハ裁判所又ハ豫審判事ノ命令又ハ囑託アリタルトキハ此限ニアラス

同第二十四條　登記簿及其附屬書類ノ滅失スル虞アルトキハ司法大臣ハ必要ナル處分ヲ命スルコトヲ得

同第五十九條　行政區劃又ハ其名稱ノ變更アリタルトキハ登記簿ニ記載シタル行政區劃又ハ其名稱ハ當然之ヲ變更シタルモノト看做ス字又ハ其名稱ノ變更アリタルトキ亦同シ

非訟事件手續法第百七十五條　清算人ニ關スル登記ハ清算ヲ爲スヘキ會社ノ登記所ノ管轄トス

前項ノ登記ハ會社ノ登記ニ記載シテ之ヲ爲ス

同第百七十六條　清算人ノ選任ノ登記ノ申請書ニハ其選任及商法第九十條第二號竝ニ第三號ニ揭ケタル事項ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

同第百七十七條　商法第九十條ニ揭ケタル事項ノ變更ノ登記ハ會社ヲ代表スヘキ現任清

算人ノ申請ニ因リテ之ヲ爲ス

申請書ニハ變更ノ事由ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

商法第九十條　清算人ノ選任アルトキハ其清算人ハ二週間内ニ本店及支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スルコトヲ要ス

一　清算人ノ氏名、住所

二　會社ヲ代表スヘキ清算人ヲ定メタルトキハ其氏名

三　數人ノ清算人カ共同シテ會社ヲ代表スヘキコトヲ定メタルトキハ其代表ニ關スル規定

非訟事件手續法第百七十八條　清算ノ結了ノ登記ヲ申請スルニハ申請書ニ清算人カ其計算ノ承認ヲ得タルコトヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス

第九章ノ二　金融組合聯合會

九十三條ノ二　金融組合ハ左ノ目的ヲ以テ道ノ區域ニ依リ金融組合聯合會ヲ設立スルコトヲ得

一　所屬組合ニ必要ナル資金ヲ貸付スルコト

二　所屬組合ヨリ預リ金ヲ爲スコト

三　所屬組合ニ對シ業務上ノ指導ヲ爲スコト

四　所屬組合相互ノ聯絡及業務上ノ便宜ヲ圖ルコト

金融組合聯合會ハ金融組合ノ外朝鮮總督ノ指定シタル産業ニ關スル法人ヲ加入セシムルコトヲ得

第九十三條ノ三　金融組合聯合會ハ社團法人トス

第九十三條ノ四　出資一口ノ金額ハ五百圓トス

第九十三條ノ五　金融組合聯合會ニ理事長一人理事一人又ハ數人及監事二人以上ヲ置ク

理事長理事ハ朝鮮總督之ヲ任免ス

監事ハ所屬ノ金融組合及第九十三條ノ二第二項ノ法人ノ役員中ヨリ總會ニ於テ之ヲ選任ス

監事ノ任期ハ二年トス但シ定款ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第九十三條ノ六　理事長ハ金融組合聯合會ヲ代表シ其ノ業務ヲ執行ス

理事長ハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外總會ノ議長ト爲ル

理事ハ理事長ヲ補佐シ定款ノ定ムル所ニ依リ理事長事故アルトキハ之ヲ代理シ缺員ノ場合ハ其ノ職務ヲ行フ

第九十三條ノ七　金融組合又ハ第九十三條ノ二第二項ノ法人カ金融組合聯合會ニ加入シ又ハ脫退セムトスルトキハ總會ノ決議ヲ經ルコトヲ要ス

第九十三條ノ八　金融組合聯合會ノ所屬金融組合又ハ第九十三條ノ二第二項ノ法人ノ業務及財産ノ實況ヲ調査スルコトヲ得

金融組合令